

構造設計標準仕様

適用は 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 工事名称 玉里団地住宅28号楼新築本体工事
建築場所 鹿児島市玉里団地三丁目47番

(2) 工事種別 ☒ 新築 ☐ 増築 ☐ 増改築 ☐ 改築

(3) 構造種別 ☐ 屋根本造 (W) ☐ 補強コンクリートブロック造 (CB) ☐ 鉄骨造 (S)
☒ 鉄筋コンクリート造 (RC) ☐ 型式鉄筋コンクリート造 (WRC)
☐ 鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC) ☐ 型式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
☐ プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC)

(4) 階数
地下 ー 階 地上 9 階 塔屋 ー 階

(5) 主要用途 集合住宅

(6) 屋上付属物
☐ 広告塔 ☐ 高架水塔 ton ☐
☐ 煙突 ☐ キュービクル ton ☐

(7) 増築計画 ☐ 有 () ☒ 無

(8) 付帯工事
☐ 門磁 ☐ 塙壁 ☐ ☐

(9) 特別な荷重
☐ エレベーター 人乗 (ロープ式、油圧式) ☐ リフト ton ☐ クレーン
☐ 倉庫積載用 kg/m² ☐ 受水槽 ton ☐

(10) 構造計算ルート X方向ルート: 3 Y方向ルート: 3

2. 使用構造材料

(1) コンクリート (構造躯体の水セメント比は、55%以下とする。)					
適用箇所	種類	設計基準強度 FC=N/mm ²	スラブ ㎝	構造体強度補正値 (S)	
柱コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 16 <input checked="" type="checkbox"/> 18	15		
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input checked="" type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 21	15	3 N/mm ²	
基礎、基礎梁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 27 <input checked="" type="checkbox"/> 30	15	3 N/mm ² (標準) 6 N/mm ² (夏期)	
躯体: 1階~2階	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 27 <input checked="" type="checkbox"/> 30	18	3 N/mm ² (標準) 6 N/mm ² (夏期)	
躯体: 3階~4階	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 24 <input checked="" type="checkbox"/> 27 <input type="checkbox"/> 30	18	3 N/mm ² (標準) 6 N/mm ² (夏期)	
躯体: 5階~6階	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 21 <input checked="" type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 27	18	3 N/mm ² (標準) 6 N/mm ² (夏期)	
躯体: 7階~9階	<input type="checkbox"/> 普通	<input checked="" type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 27	18	3 N/mm ² (標準) 6 N/mm ² (夏期)	

(2) コンクリートブロック (CB)
☐ A種 ☐ B種 ☐ C種 厚 ☐ 100、☐ 120、☐ 150、☐ 190、

(3) 鉄筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	<input checked="" type="checkbox"/> SD295A	D10~D16	躯体全般	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手 D10~D16
	<input type="checkbox"/> SD295B			
	<input checked="" type="checkbox"/> SD345	D19以上	躯体全般	<input checked="" type="checkbox"/> ガス圧接継手 D19以上
	<input checked="" type="checkbox"/> SD390	D29以上	躯体全般	
高強度せん断補強筋	<input checked="" type="checkbox"/> ウルボン鋼 1275N/mm ² 級 (同等品)		STP・HDOP	
溶接金鋼 (JIS G 3551)	<input checked="" type="checkbox"/> 60~150×150		床・屋根	()

(4) 鉄骨	種類	使用箇所	現場溶接	設計溶接強度
鋼材	<input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SN400 <input type="checkbox"/> SM400B	大梁、小梁	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 0.9F <input type="checkbox"/> 1.0F
	<input type="checkbox"/> STX400 <input type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> BCR295	柱	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 0.9F <input type="checkbox"/> 1.0F
	<input type="checkbox"/> SN400A <input type="checkbox"/> SN490B <input type="checkbox"/> SM490C	ダイヤフラム	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 0.9F <input type="checkbox"/> 1.0F
	<input type="checkbox"/> SSC400	鋼縁、母屋	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 0.9F <input type="checkbox"/> 1.0F
	通しダイヤフラムは変フランジ厚の2サイズ以上とする		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 0.9F <input type="checkbox"/> 1.0F

(5) ボルト

☐ 高力ボルト ☐ F10T ☐ F8T ☐ S10T 認定品 (☐ M12、☐ M16、☐ M20、☐ M22、)
☐ 中ボルト M12 高力ボルトすべり係数試験 ☐ 要 ☐ 否
☐ アンカーボルト 既製品仕様による φ = L = mm ナット (シングル、ダブル)

☐ 頭付スタッド φ = L = mm

(6) 屋根、床、壁 使用箇所

☐ ALQ版
☐ 折板葺 (勾配屋根部) H = 166 厚 - 屋根
☐ デッキプレート 型式 EZ50-1.2 厚 - 2層床
☐ フラットデッキ 型式 厚 -
☐ ポリカーボネート 厚 -
☐ 防火サイディング (外壁) 厚 - 外壁

3. 地盤

(1) 地盤調査資料
☒ 有 (☒ 敷地内 ☐ 近隣) ☒ ボーリング調査 ☐ 平板載荷試験 ☐ 水平地盤反力係数の測定
☐ 無 (調査予定 ☐ 有 ☐ 無)

(2) 地盤調査計画
☐ ボーリング調査 ☐ 静荷貫入試験 ☐ 標準貫入試験 ☐ 水平地盤反力係数の測定
☐ 土質試験 ☐ 物理探査 ☐ 平板載荷試験

(3) 地盤調査及び試験杭の結果により杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を 変更する場合もある。

(4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)

深度	土質	N 値	標準貫入試験	
			10 20 30 40 50 60	
1				○ボーリング名
2				○孔内水位
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				

4. 地業工事

(1) 直接基礎 ☐ ベタ基礎 ☐ 布基礎 ☐ 独立基礎 ☐ 地盤改良杭 試験杭 ☐ 有 ☒ 無
深さ: 支持層: 長期許容支持力= 載荷試験 ☐ 有 ☒ 無

(2) 杭基礎

杭種	材料	施工法	備考
<input checked="" type="checkbox"/> PHC管杭 <input type="checkbox"/> PC	PHC (<input checked="" type="checkbox"/> V種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> 田種)	<input checked="" type="checkbox"/> プレバリーング拡大機掘り工法	拡大比 ω=1.30 拡大掘削長=4.00m 無溶接継手: T P J
<input checked="" type="checkbox"/> PHC密杭 <input type="checkbox"/> H鋼	PHC (<input checked="" type="checkbox"/> A種 <input checked="" type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種)	<input type="checkbox"/> セメントミルク工法 (ケーシング併用)	
<input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭	鋼材 SS400 <input type="checkbox"/> STX400	<input type="checkbox"/>	大臣認定案 号 年 月 日
<input type="checkbox"/> 場所打ち コンクリート杭	コンクリート Fc= スラブ ㎝ セメント量 kg/m ³ 鉄筋 主筋 SD HOOP SD	<input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 杭底杭 <input type="checkbox"/> リバースサーキュレーション <input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> ミニアース <input type="checkbox"/> BH <input type="checkbox"/> 深礎 <input type="checkbox"/> 手掘 <input type="checkbox"/> 機械掘	日本建築センター認定 第 号 年 月 日

杭仕様 ☒ 施工計画書承認 ☒ 杭底杭結果報告書
試験杭 (☒ 有 ・ ☐ 無) (☐ 打ち込み ・ ☐ 載荷) 本

杭径 (mm)	杭種・杭長	設計支持力 (KN/本)	本 数	特 記 事 項
	S-06図杭仕様参照			

5. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート
☒ コンクリートは JIS 認定工場の製品とし施工に關しては JASS5 による。
☒ セメントは、JIS R5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。
☒ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
☒ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
☒ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で (財) 国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定部の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真 (カラー) を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試験から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
☒ 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体 (JASS5 T・603) は、現場水中養生、または現場対かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が150mm²をこえる場合は150mm²ごとはまたは、その幾何ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3本の選搬からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4通用に3本用いる。
☒ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送機または同等以上の技能を有するものが従事すること。なお、コンクリートの繰上げから打ち込み終了までの時間は、外気温が25℃以下の場合は120分以内とし、25℃を超える場合は90分以内とする。
(2) 鉄筋
☒ 鉄筋は JIS G3112 の規格品を標準とする。
☒ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さ「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」による。
D19未満は、すべて重ね継手とする。継手 (D19以上) をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
☒ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと (200箇所を超えるときは、200箇所ごと) に1回行い、1回の試験は5本以上とする。
外観検査 ☒ 有 ☐ 無、引張試験 ☐ 有 ☐ 無、超音波探傷試験 ☒ 有 ☐ 無
☒ 柱の帯筋 (HOOP) の加工方法は、 ☒ H型 (タガ型) ☐ W型 (溶接型) ☐ S型 (スパイラル型) とする。
コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験機関名 代行業者名 代行業者名とは、試験、検査に伴なう業務を代行するものをいう。
(3) 型枠
☒ 材料 合板厚 12 mm を標準とする。
☒ 型枠存置期間

種類 部 位 セ メ ン ト の 種 類 平 均 気 温 存 在 期 間	せき板				支柱			
	基礎、はり側、柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下	
	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント	早強ポルト ランドセメント	
		高炉セメント A種		高炉セメント A種		高炉セメント A種	普通ポルト ランドセメント	
		シリカセメント A種		シリカセメント A種		シリカセメント A種	高炉セメント A種 シリカセメント A種	
コン クリ ー ト の 材 質 (日 本)	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～ 15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コン クリ ー ト の 圧 縮 強 度	5 N/mm ²		設計基準強度の50%		設計基準強度の			
					85%		100%	

- 注) 1 片持ばり、応、スパン9.0以上のはり下は、工事監理者の指示による。
- 注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として 行わない。
- 注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上のコンクリート打ち後とする。
- 注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
- 注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終ってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
- 注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
☐ 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
☐ 鋼材供出部「建築鉄骨工事施工指針」
☐ 建築研究所「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの
☐ 製作工場 ☐ 製作要領書 ☐ 工作図 ☐ 施工計画書
☐ 認定工場 (大臣認定 S・H・M・R・J グレートまたは都産鉄 ランク)
☐ 材料規格証明書または試験成績書
☐ 鋼材 ☐ 高力ボルト ☐ 特殊ボルト ☐ スタッポルト
☐ 社内検査表 ☐

(3) 工事監理者が行う検査項目
(☐ 印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
☐ 現寸検査 ☐ 組立・開先検査 ☐ 製品検査
☐ 溶接検査

(4) 接合部の溶接は下記によること
☐ 東京都アーク溶接工事管理基準 (建築構造設計指針第12章)
☐ 鉄骨造等の建築物の工事に關する東京都取扱要綱 (建築構造設計指針第12章)
☐ 日本建築学会「溶接工作基準、同解説1、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」

(5) 接合部の検査
☐ 溶接部の検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		柱間	第三者	工事監理者	
<input type="checkbox"/> 突合せ溶接部	超音波探傷試験	100%	30%	%	第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。
<input type="checkbox"/>	外観 (目視) 検査	%	%	%	
<input type="checkbox"/>	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者機関名					

注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。

☐ 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は風皮などを産金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グロットブラストによる処理で赤さびあらしが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。

☐ 溶融亜鉛メッキ高力ボルト (FR) の摩擦面の処理はメッキ後、軽くブラスト処理を施し、表面粗度は50μm以上とし、すべり係数を0.40以上確保する。

☐ 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。

(6) 防錆塗装
☐ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5674、2回塗り標準とする。
☐ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の露出鋼材は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料

7. 設備関係 (施行令第129条の2の3)

☒ 特記以外の乗貫穿孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
☒ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
☒ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を5cm以上とする。
☒ 給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に對し安全上支障のない構造とすること。
満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に對して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。
※「給湯設備」建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの。

8. その他

☒ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
☒ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
☒ 必要に応じて記録写真を撮影保管すること。

鉄筋記号

鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25		
記号	•	x	∅	●	○	◎		

図面作成
一級建築士: 第207802号
構造設計一級建築士: 第7330号
小城 登志郎

株式会社 中設計
鹿児島市清水町13番22号
〒892-0802 TEL (090) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

玉里団地住宅28号楼新築本体工事

構造設計標準仕様

NO SCALE

鹿児島市建設局建築部住宅課

S-01

鉄筋コンクリート構造配筋要領図（１）

- Ⅰ. この配筋要領は、鉄筋コンクリート構造部分等の鉄筋工事に適用する。
- Ⅱ. 本配筋要領に特記なき部分については、監督員の指示により施工するものとする。
- Ⅲ. () 内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（平成31年版）」の当該項目、当該図を示す。

１ 一般事項

総 則 (５. １. ３) (５. ３. １)～(５. ３. ４)

- (１) 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。なお、異形鉄筋の径(本文、図、表において「 d 」で示す)は、呼び名に用いた数値とする。
- (２) 有害な曲がり又は損傷等のある鉄筋は使用しない。
- (３) コイル状の鉄筋は、直線状態にしてから使用する。この際、鉄筋に損傷を与えない。
- (４) 鉄筋には、点付け溶接を行わない。また、アークストライクを起こしてはならない。
- (５) 鉄筋の切断は、シャーカッター等によって行う。
- ただし、現場でやむを得ない場合は、ガス切断とすることができる。
- (６) 鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要所を除く $0.8mm$ 以上の鉄線で結束し、適切な位置にスプーサー、吊金物等を使用し行う。
- なお、スプーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスプーサーは、原則として鋼製とする。また、鋼製のスプーサーは、型枠に接する部分に、防錆処理を行ったものとする。
- (７) 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手とし、適用は特記による。
- (８) 主要な配筋は、コンクリート打込みに先立ち、種類、径、数量、かぶり、間隔、位置等について監督員の検査を受ける。

１－１ 鉄筋の折曲げ基準

鉄筋の折曲げ形状及び寸法

(５. ３. ２ (g))

折曲げ 角 度	折 曲 図	折曲げ内法直径 (g)		
		S D 2 9 5 A、 S D 2 9 5 B	S D 3 4 5	S D 3 9 0
		D 1 6 以下	D 1 9 ～D 3 8	D 1 9 ～D 3 8
1 8 0°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上
1 3 5°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上
9 0°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上
1 3 5° 及び 9 0° (幅止め筋)		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上

1. 片持ちスラブの先端、壁筋の自由端側の先端で90° フック又は135° フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
2. 90° 未満の折曲げの内法直径は特記による。

１－２ 鉄筋の継手及び定着の長さ

(５. ３. ４ (e) (2))

○ 鉄筋の定着の長さは下表による。

鉄筋の 種 類	コンクリートの 設計基準強度 (f_c) N/mm ²	直線定着の長さ				フックあり定着の長さ				投影定着長さ	
		L_1	L_2	小梁	スラブ	L_{1h}	L_{2h}	小梁	スラブ	L_a	L_b
S D 2 9 5 A S D 2 9 5 B	1 8	4 5 d	4 0 d			3 5 d	3 0 d			2 0 d	
	2 1	4 0 d	3 5 d			3 0 d	2 5 d				1 5 d
	2 4	2 7	3 5 d			2 5 d	2 0 d				
S D 3 4 5	3 0	3 3	3 6	3 5 d	3 0 d	1 0 d	3 5 d	3 0 d		2 0 d	2 0 d
	1 8	5 0 d	4 0 d			3 0 d	2 5 d				
	2 1	4 5 d	3 5 d			3 0 d	2 5 d				
S D 3 9 0	2 4	2 7	4 0 d	3 5 d	3 0 d	2 5 d	2 0 d			1 5 d	1 5 d
	3 0	3 3	3 6	3 5 d	3 0 d	2 5 d	2 0 d				
	2 1	5 0 d	4 0 d			3 5 d	3 0 d			2 0 d	2 0 d
	2 4	2 7	4 5 d	4 0 d		3 0 d	2 5 d				1 5 d

- (注) 1. L_1 、 L_{1h} : 2. 以外の直線定着長さ及びフックあり定着長さ。
2. L_2 、 L_{2h} : 割断壁筋の径その他のない箇所への直線定着長さ及びフックあり定着の長さ。
3. L_3 : 小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く。
4. L_{3h} : 小梁下端筋のフックあり定着の長さ。
5. フックあり定着の場合は、下図に示すようにフック部分 h を含まない。
また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の数値に5dを加えたものとする。
7. 柱に取り付け梁の引張鉄筋は、柱の主筋に溶接する場合を除き、柱に定着される部分の長さを40d以上とする。

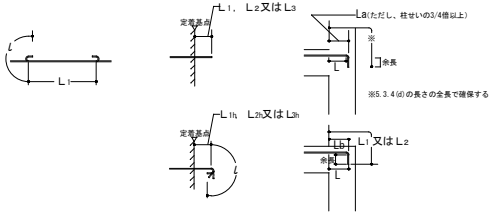

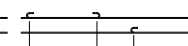
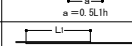
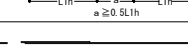
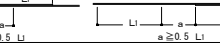
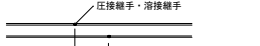


図5.3.4 (g) の長さの数値で補填する

１－３ 隣り合う継手の位置

(５. ３. ４ (d))

隣り合う継ぎ手の位置は下表による。ただし壁の場合及びスラブ筋でD 1 6 以下は除く。

重ね継手 フックありの場合		
重ね継手 フックなしの場合		
圧接継手 溶接継手		
機械式継手		

１－４ 鉄筋のフック（必ずつける端部）

(５. ３. ２ (b))

○ 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部には、フックをつける。

- (１) 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合。
- (２) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合。（基礎梁を除く）
- (３) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む。）
- (４) 杭基礎のベース筋。
- (５) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋。

１－５ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

(５. ３. ５)

- (a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、下表による。
(柱及び梁の主筋にD 2 9 以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1. 5 倍以上として最小かぶり厚さを定める。)

(イ)		(ロ)	
部 位		最小かぶり厚さ	
直接土に接しない部分	耐力壁以外の壁又は床	屋内 (イ)	屋外 (ロ)
	耐力壁、柱、梁又は壁梁	屋内	屋外
	壁、柱、床、梁、基礎梁又は基礎の立上り部分	屋内	屋外
	基礎（立上り部分及び捨てコンクリートの部分を除く。）	屋内	屋外
直接土に接する部分		6 0	7 0

注 外壁の屋外に面する部位にタイル張、モルタル塗、外断熱工法による仕上げその他これらと同等以上の性能を有する処理が施されている場合には、屋外側の部分に限り、(ロ) 項に掲げる最小かぶり厚さを1 cm減ずることができる。

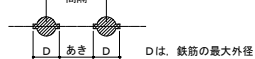
- (注) 1. ※ 印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上建材、吹付け又は塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。
6. 増し打ち等がある場合は増し打ち厚さを考慮したスプーサーを使用する。

(b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに1 0 mmを加えた数値を標準とする。

(c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

(d) 鉄筋相互のあきは、次の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合はあきは、特記による。

- (１) 粗骨材の最大寸法の1. 2 5 倍
(２) 2 5 mm
(３) 隣り合う鉄筋の平均径 (５. ３. １ (a) による。) の1. 5 倍。



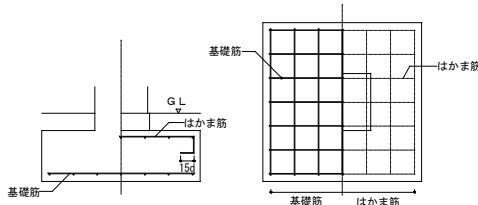
(e) 鉄筋鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d) による。

(f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、(c) による。

２ 基礎

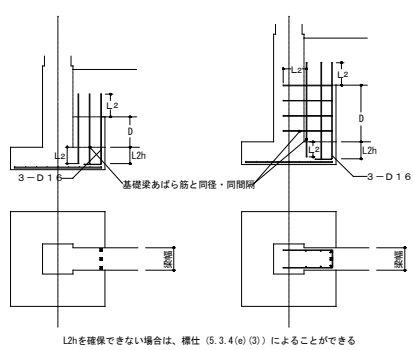
２－１ 直接基礎（独立基礎）の場合の配筋

(参考図 1. 1)



３－４ 基礎接合部の補強

(参考図 1. 3)

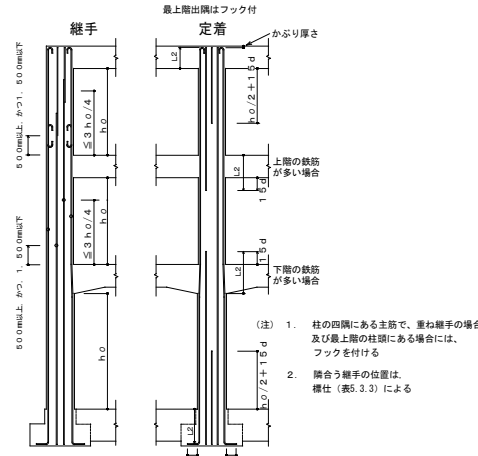


L_{2h} を確保できない場合は、横仕 (5. 3. 4 (d) (3)) によることができる

４ 柱

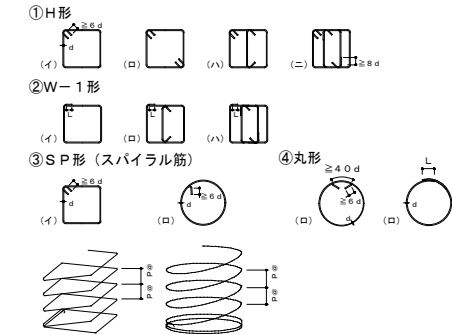
４－１ 柱主筋の継手、定着及び余長

(参考図 2. 1)



４－２ 帯筋の形

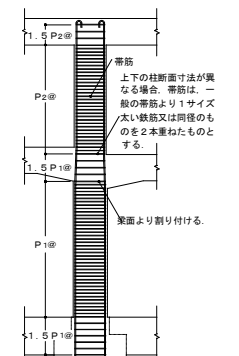
(参考図 2. 2)



1. H型を標準とする
2. フック及び継手位置は交互とする
3. 溶接する場合の溶接長さ L_{1h} は、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレアの場合は10d以上とする。
4. S型において、柱頭及び柱筋の増部は、5巻以上の添巻きを行う
5. H型の135° 曲げのフックが困難な場合はW型とする

４－３ 帯筋の割付け

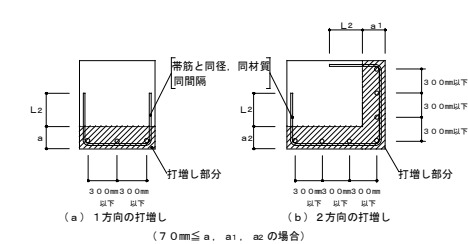
(参考図 2. 3)



柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1. 5 P_{1h} 又は1. 5 P_{2h} とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。なお、 P_{1h} 、 P_{2h} は、特記された帯筋の間隔を示す。

４－４ 柱の打増し補強

(参考図 2. 4)



1. 柱の打増し幅 (a_1 、 a_2) が70mm以上の場合の補強を示す。
2. 帯筋と同一方向の補強筋は、帯筋と同様、同材質、間隔とし定着長さは L_d とする。
3. 軸方向の補強筋間隔は300mm以下とする。

図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

株式会社 島中設計

鹿児島市清水町13番22号
〒892-0802 TEL (099) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

玉里団地住宅28号棟新築本体工事

鉄筋コンクリート構造

配筋要領図 (1)

鹿児島市建設局建築部住宅課

NO SCALE

S-02

鉄筋コンクリート構造配筋要領図（２）

５ 梁

５－１ 大梁主筋の継手及び定着及び余長

(参考図 3. 1～3)

- 梁主筋は、原則として柱をまわって引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図 3. 1 による。
- 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次のとおり。
なお、定着方法は横仕 (5. 3. 4 (b) (3)) による。
上端筋：曲げ降ろす。
下端筋：原則として曲げ上げる。
- 段違い梁は、図 3. 2 によることができる。

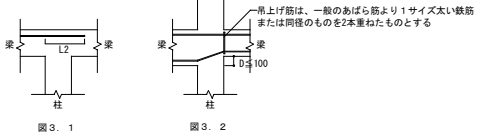
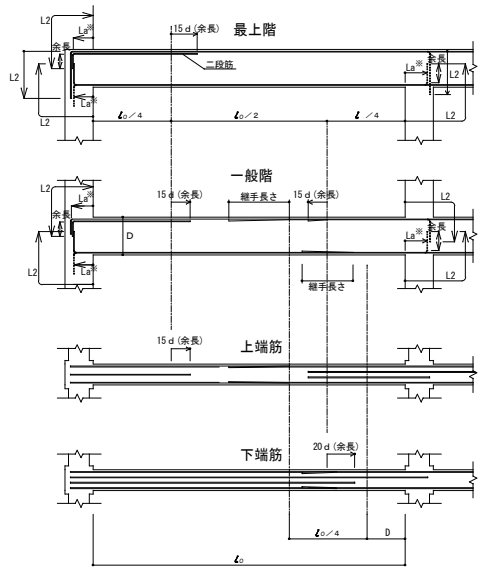


図 3. 1

図 3. 2

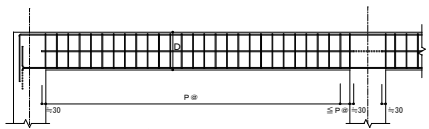


- 継手及び圧接中心位置は、次による。
上端筋：中央 $L/2$ 以内
下端筋：柱面より梁せい (D) 以上離し、 $L/4$ を加えた範囲以内
- 横仕 (5. 3. 2 (b) (2)) で定めた鉄筋には、フックを付ける。
- 印は、継手及び余長を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- ※ $L/4$ の数値は、原則として、柱せいの $3/4$ 倍以上とする。

５－２ あばら筋の割付け

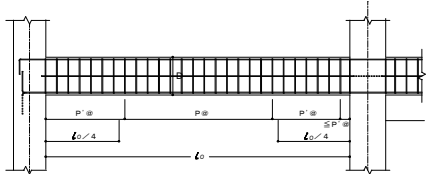
(参考図 3. 6・8)

(１) 間隔が一樣で、ハンチのない場合



- あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
- 図中の P 印は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

(２) 梁の端部で間隔の異なる場合

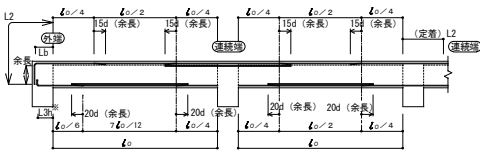


- あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
- 図中の P 印、P' 印は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

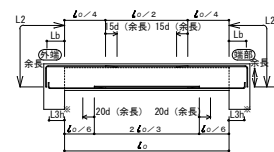
５－３ 小梁主筋の継手、定着及び余長

(参考図 3. 4)

(１) 連続小梁の場合



(２) 単独小梁の場合

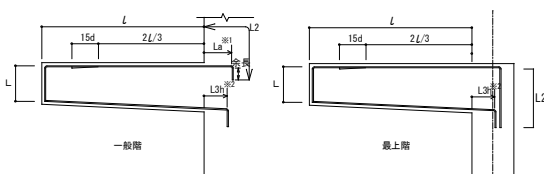


- 印は、余長位置を示す。
- 梁せいが小さく断面に余長が取れない場合、斜めにしてもよい。
- 図示のない事項は、5. 1 による。
- ※ $L/4$ の数値は、原則として、柱せいの $3/4$ 倍以上とする。
- ※ $L/4$ を確保できない場合は、横仕 (5. 3. 4 (b) (3)) によることができる。

５－４ 片持梁主筋の定着及び余長

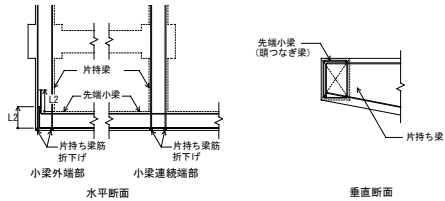
(参考図 3. 13・14)

(１) 先端に小梁のない場合



- 印は、余長を示す。
- 先端の折曲げの長さ L は、梁せいから厚さを除いた長さとする。
- 図示のない事項は、5. 1 による。
- ※ $L/4$ の数値は、原則として、柱せいの $3/4$ 倍以上とする。
- ※ $L/4$ を確保できない場合は、横仕 (5. 3. 4 (b) (3)) によることができる。

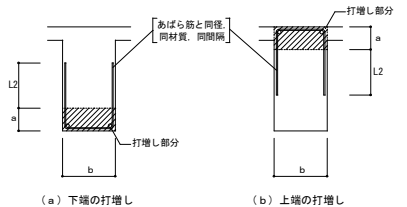
(２) 先端に小梁がある場合



- 図示のない場合は、(1) による。
- 先端小梁終端筋の主筋は、片持梁内に水平定着する。
- 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

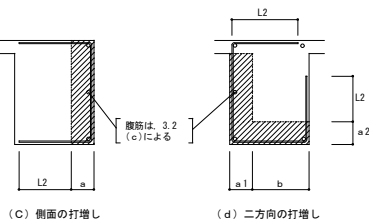
５－５ 梁の打増し補強

(参考図 3. 10)



(a) 下端の打増し

(b) 上端の打増し



(c) 側面の打増し

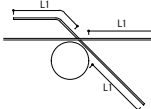
(d) 二方向の打増し

- 梁の打増し幅 (a, a1, a2) が 70mm 以上の場合の補強を示す
- あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同径、同材質、間隔同しとし、定着長さは $L/2$ とする

５－６ 梁貫通孔の補強

(参考図 7. 1・2)

- 梁貫通孔補強筋の名称等は、図 7. 1 による。
- 孔の径は、梁せいの $1/3$ 以下とし、孔が円形でない場合はこの外径とする。
- 孔の上下方向の位置は梁せいの中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より $D/3$ (D は梁せい) の範囲に設けてはならない。
- 孔は柱面から、原則として $1.5D$ 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁を除く。
- 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の 3 倍以上とする。
- 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 補強筋は、主筋の内側とする。また鉄筋の定着長さは下図による。



- 孔の径が梁せいの $1/10$ 以下、かつ、 150mm 未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることで開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- 溶接金網の余長は 1 倍子以上とし、突出は 10mm 以上とする。

- 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 $1-13\phi$ のリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は溶接金網に 4 箇所以上溶接する。
- 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

凡 例	配 筋
斜 め 筋 4-2-D22	4本のD22が2面入ることを示す
縦 筋 4-2-D13	4本のD13があばら筋内に2本づつ入ることを示す
上下縦筋 3-2-D13	孔の上下の部分には各々D13のあばら筋が3本入ることを示す
溶接金網 2-6-φ100	6φ100の溶接金網が2面入ることを示す

鉄筋標準配筋

但し、 $\phi \leq D/3$ とする

80 ≤ φ ≤ 100 折 筋 2-(2-D13) 縦 筋 ST2-D13	100 ≤ φ ≤ 150 折 筋 2-(2-D13) 縦 筋 ST2-D13-100@ 横 筋 2-(2-D13)	150 ≤ φ ≤ 250 斜 筋 4-(2-D13) 縦 筋 ST2-D13-100@ 横 筋 2-(2-D13) ト 縦 筋 ST2-D13
<p>φ > 250</p> <p>孔補強の有効範囲と定着長さのとり方</p> <p>※ 断面については計算で確認された場合は右記の位置、寸法によらずに良い。</p> <p>・梁幅が400を超える場合は補強筋でD13はD16又は、2-D13は3-D13と、各々読みかえる</p>		

６ ス ラ ブ

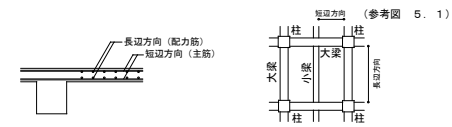
６－１ スラブの配筋

(表 5. 1)

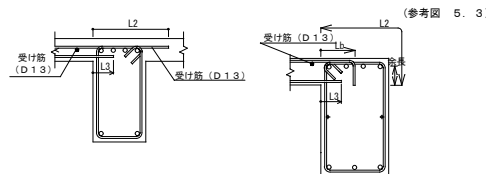
○スラブ基準配筋

配筋種類	短 辺 方 向 (主 筋) 全 域	長 辺 方 向 (配 筋) 全 域	配筋種類	短 辺 方 向 (主 筋) 全 域	長 辺 方 向 (配 筋) 全 域
S 1	D13-100@	D13-100@	S 8	D10, D13-150@	D10-150@
S 2	同 上	D13-150@	S 9	同 上	D10-200@
S 3	同 上	D10, D13-150@	S 10	D10, D13-200@	D10, D13-200@
S 4	D13-150@	D13-150@	S 11	同 上	D10-200@
S 5	同 上	D10, D13-150@	S 12	同 上	D10-250@
S 6	同 上	D10-150@	S 13	D10-200@	D10-200@
S 7	D10, D13-150@	D10, D13-150@	S 14	同 上	D10-250@

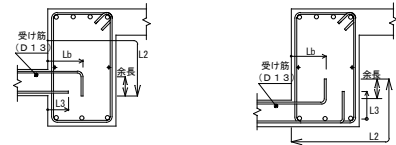
(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。



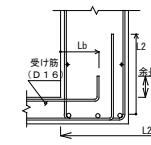
- 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
- 鉄筋の重ね継手長さは、 $L/1$ とする。



(参考図 5. 3)



一般スラブの場合



耐圧スラブの場合

６－２ 片持ちスラブ

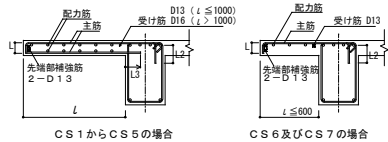
(表 5. 3)

片持ちスラブの配筋

(1) 片持ちスラブの配筋

配筋種類	主 筋	配筋種類	主 筋
CS 1	上 D13-100@	CS 5	上 D10-200@
	下 D13-200@		下 D10-400@
CS 2	上 D13-150@	CS 6	上 D10, D13-200@
	下 D13-300@		下 ———
CS 3	上 D10, D13-150@	CS 7	上 D10-200@
	下 D10, D13-300@		下 ———
CS 4	上 D10, D13-200@	CS 8	上 D10-200@
	下 D10-200@		下 ———

(参考図 5. 5)

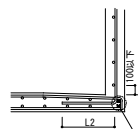


CS 1 から CS 5 の場合

CS 6 及び CS 7 の場合

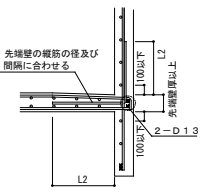
- 先端の折曲げ長さ L は、スラブ厚さより厚さを除いた長さとする。
- スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

(2) 先端に壁が付く場合



垂れ壁のない場合

(参考図 5. 6)

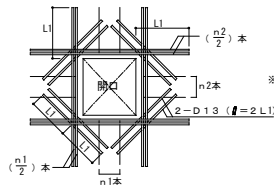


垂れ壁のある場合

６－３ スラブ開口部の補強

(参考図 5. 7)

- スラブ開口部によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に 2-D13 ($L=2L1$) シングルを上下筋の内側に配筋する。
- スラブ開口部の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。



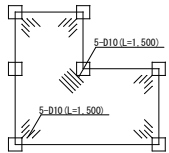
※ スラブ開口部の最大径が700mm以下の場合に限る。

鉄筋コンクリート構造配筋要領図（３）

6-4 スラブ等の補強

1) 屋根スラブの出隅及び入隅部

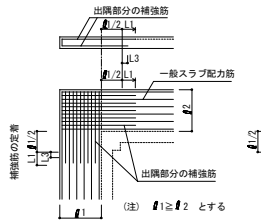
(参考図 5. 8)



補強筋を上端筋の下側に配置する

2) 片持スラブの出隅部

(参考図 5. 9)

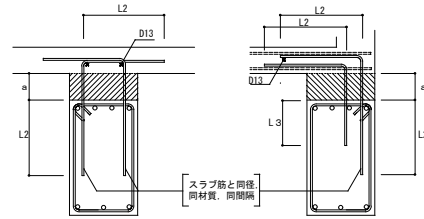


(出隅部分補強配筋)

(出隅受け部配筋)

3) 土間スラブの打継ぎ補強

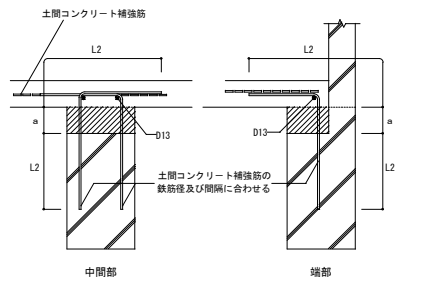
(参考図 5. 10)



中間部 端部
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強を示す。

4) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

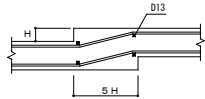
(参考図 5. 11)



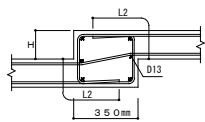
中間部 端部

5) 段差のあるスラブの補強

(参考図 5. 12)



(a) 段差 (H) が70mm以下の場合



(b) 段差 (H) が70mmを超え、150mm以下の場合

※ 150mm以下の段差のあるスラブの場合に限る。

7 階段

7-1 片持ちスラブ形階段

(参考図 6. 1)

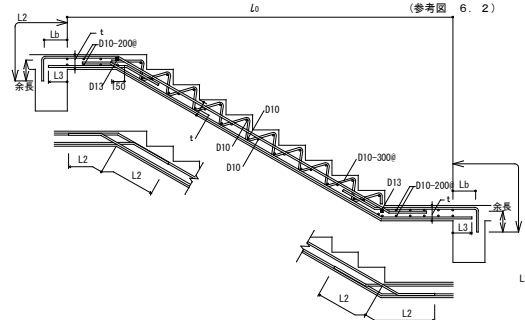
片持ちスラブ形階段基準配筋	
配筋種別	KA 1
配筋図	
配筋種別	KA 2
配筋図	

(注) 1. 壁配筋は、8-3による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから壁に降ろす。
3. スラブ配筋の継手及び定着の長さは、補注（表5.3.4）のL3とする。

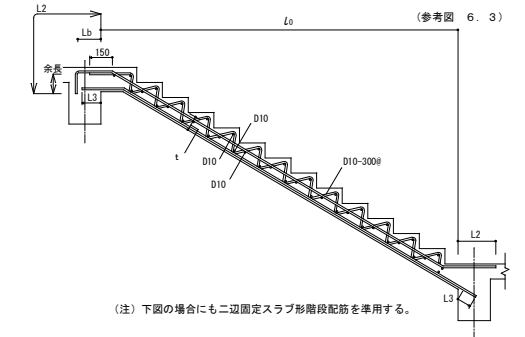
7-2 二辺固定スラブ形階段

(表 6. 2)

二辺固定スラブ形基準配筋	
配筋種別	上端筋、下端筋とも（全端）
KB 1	D13-200
KB 2	D13-150
KB 3	D13-100
KB 4	D13, D16-150
KB 5	D16-150
KB 6	D16-125
KB 7	D16-100

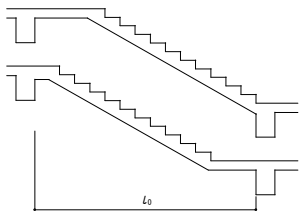


(参考図 6. 2)



(参考図 6. 3)

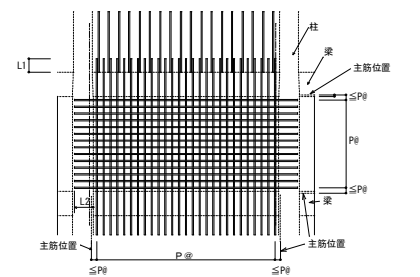
(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。



8 壁

8-1 一般事項

(参考図 4. 1)



1. 図のPは、特記された壁筋の間隔を示す
2. 壁配筋の重ね継手はL1、定着長さはL2とする
3. 幅止め筋は縦横ともD10-1000程度とする

8-2 壁の配筋

(表 4. 1)

種別	縦筋及び横筋	断面図
W12	D10-200 シングル	120
W15A	D10-150 シングル	150
W15B	D10-100 シングル	150
W18A	D10-200 ダブル	180
W18B	D10-150 ダブル	180
W20A	D10-200 ダブル	200
W20B	D10-150 ダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

8-3 片持ちスラブ形階段を受ける壁の配筋

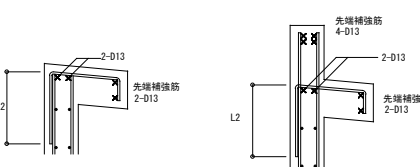
(表 4. 2)

種別	縦筋及び横筋	断面図	階段の配筋種別 (7-1)
KW1	縦筋 D13-200 ダブル	180	KA 1
	横筋 D10-200 ダブル		KA 3
KW2	縦筋 D13-150 ダブル	200	KA 2
	横筋 D10-200 ダブル		KA 4

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

8-4 パラベットの配筋

(参考図 4. 5)

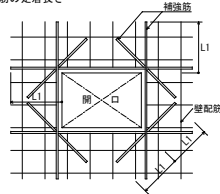


8-5 壁開口部補強

(表 4. 3・4)

A 形		B 形	
壁の種別	補強筋	壁の種別	補強筋
	縦・横		縦・横
W12, W15	1-D13	W12, W15	2-D13
W18, W20	2-D13	W18, W20	4-D13

2) 壁開口部補強筋の定着長さ

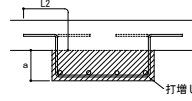


(参考図 4. 3)

3) 開口部が柱及び梁に接する部分又は鉄筋を縦やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

8-6 壁の打増し補強配筋

(参考図 4. 4)

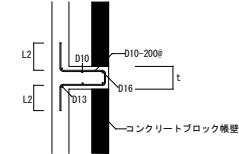


壁の打増し厚さ (a) が50mm以上の場合の補強を示す。

9 その他

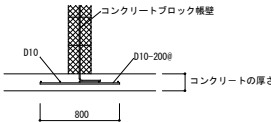
9-1 コンクリートブロック縦壁との取合い

控壁の配筋 (参考図 7. 3)



張壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強

(参考図 7. 4)



図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

株式会社 畠中設計
鹿児島市清水町13番22号
〒892-0802 TEL (099) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

玉里団地住宅28号棟新築本体工事

鉄筋コンクリート構造

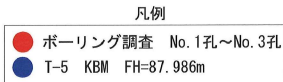
配筋要領図（３）

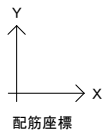
鹿児島市建設局建築部住宅課

NO SCALE

S-04

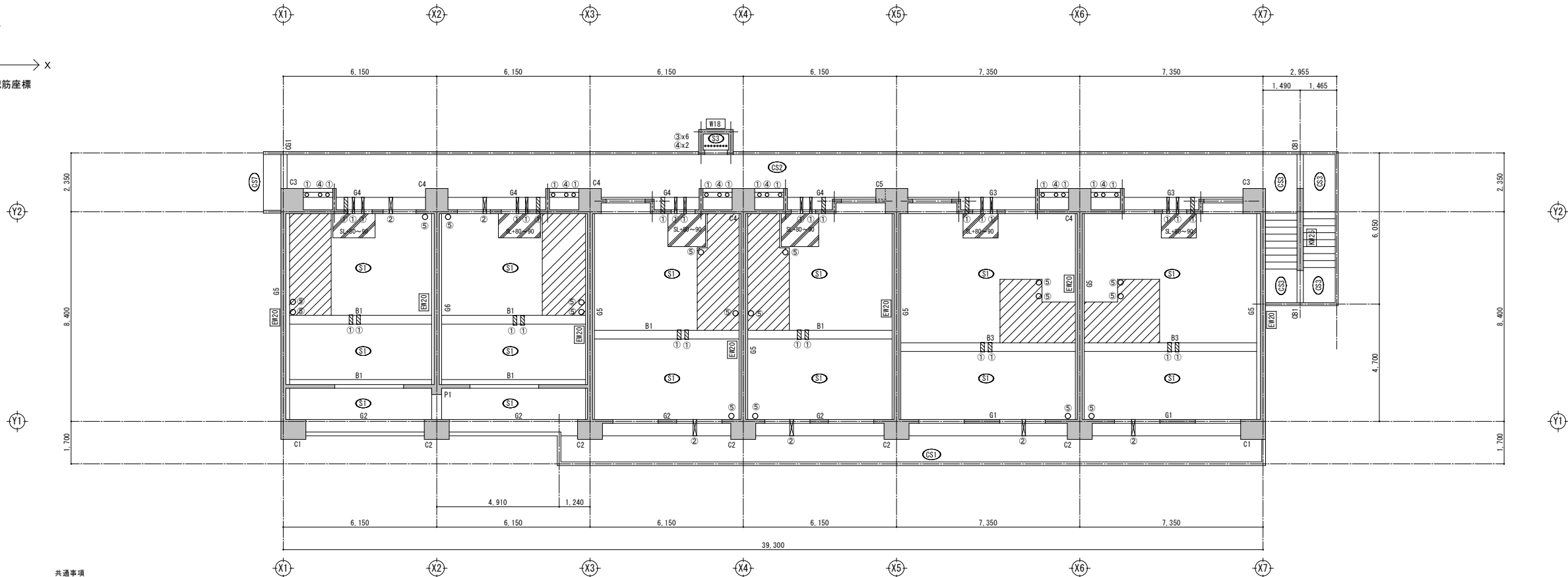
ボーリングNo									
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[illegible][illegible]



梁貫通スリーブ補強		
記号	径(φ)	個所数
①	120	30
②	170	6

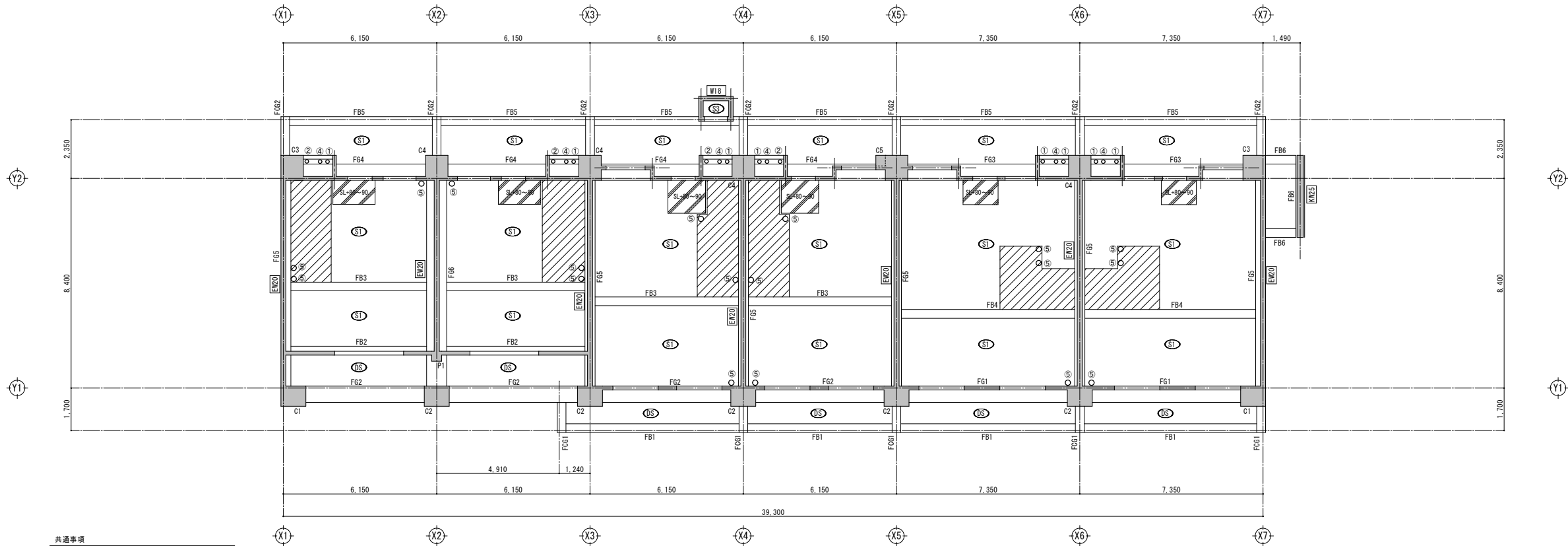
床貫通スリーブ		
記号	径(φ)	個所数
①	120	12
③	60	6
④	90	8
⑤	220	18



- 共通事項
- 特記なき限り下記による。
- 壁符号は、W15とする。
 - スラブ天端は、FL-140mmとする。
 - 斜線部のスラブ天端は、FL-210mmとする。
 - 斜線部のスラブは、増し打ち範囲を示す。

2. 3階梁伏図(見下げ図) S=1:100

床貫通スリーブ		
記号	径(φ)	個所数
①	120	8
②	140	4
④	90	6
⑤	220	18



- 共通事項
- 特記なき限り下記による。
- 壁符号は、W15とする。
 - スラブ天端は、FL-140mmとする。
 - 斜線部のスラブ天端は、FL-210mmとする。
 - 斜線部のスラブは、増し打ち範囲を示す。

1階梁伏図(見下げ図) S=1:100

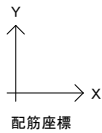
図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

株式会社 畠中設計
鹿児島市清水町13番22号
〒892-0802 TEL (099) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

玉里団地住宅28号棟新築本体工事

1階梁伏図	A1:1/100
2. 3階梁伏図	A3:1/200

鹿児島市建設局建築部住宅課

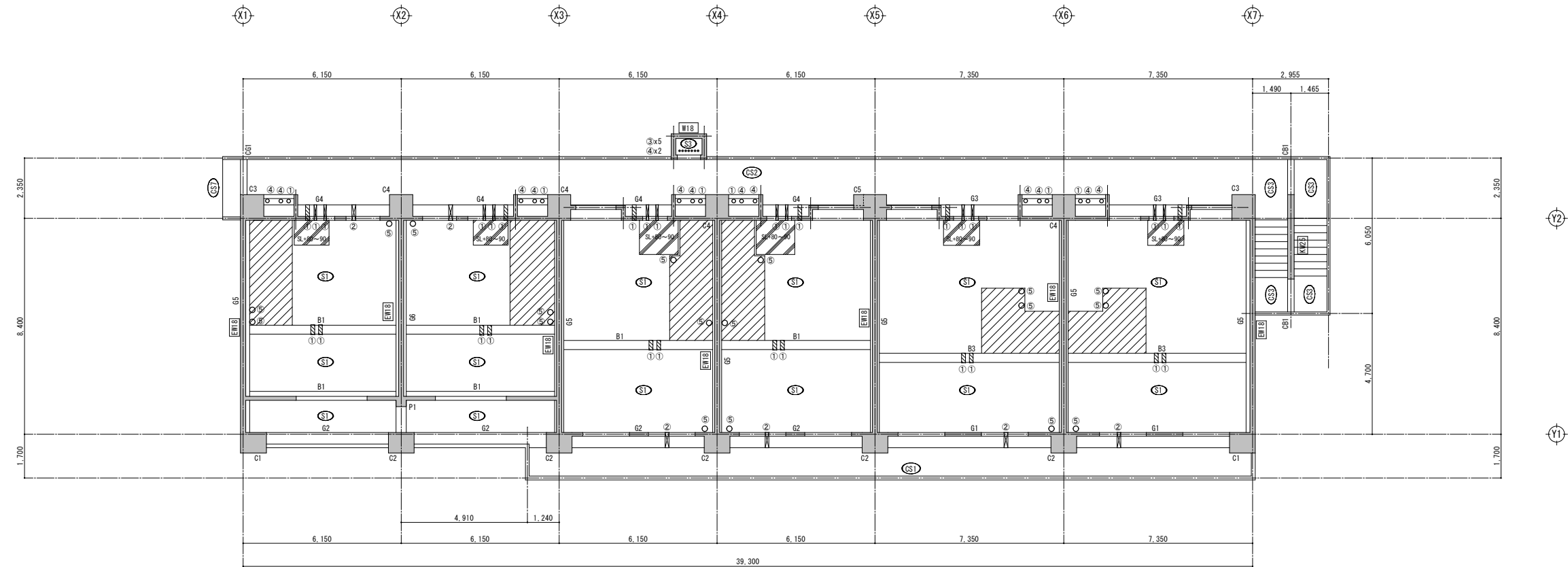


梁貫通スリーブ補強

記号	径(φ)	個所数
①	120	30
②	170	6

床貫通スリーブ

記号	径(φ)	個所数
①	120	6
③	60	5
④	90	14
⑤	220	18



- 共通事項
特記なき限り下記による。
1. 壁符号は、W15とする。
 2. スラブ天端は、FL-140mmとする。
 3. 斜線範囲のスラブ天端は、FL-210mmとする。
 4. 斜線範囲のスラブは、増し打ち範囲を示す。

梁貫通スリーブ補強

記号	径(φ)	個所数
①	120	30
②	170	6

4階床貫通スリーブ

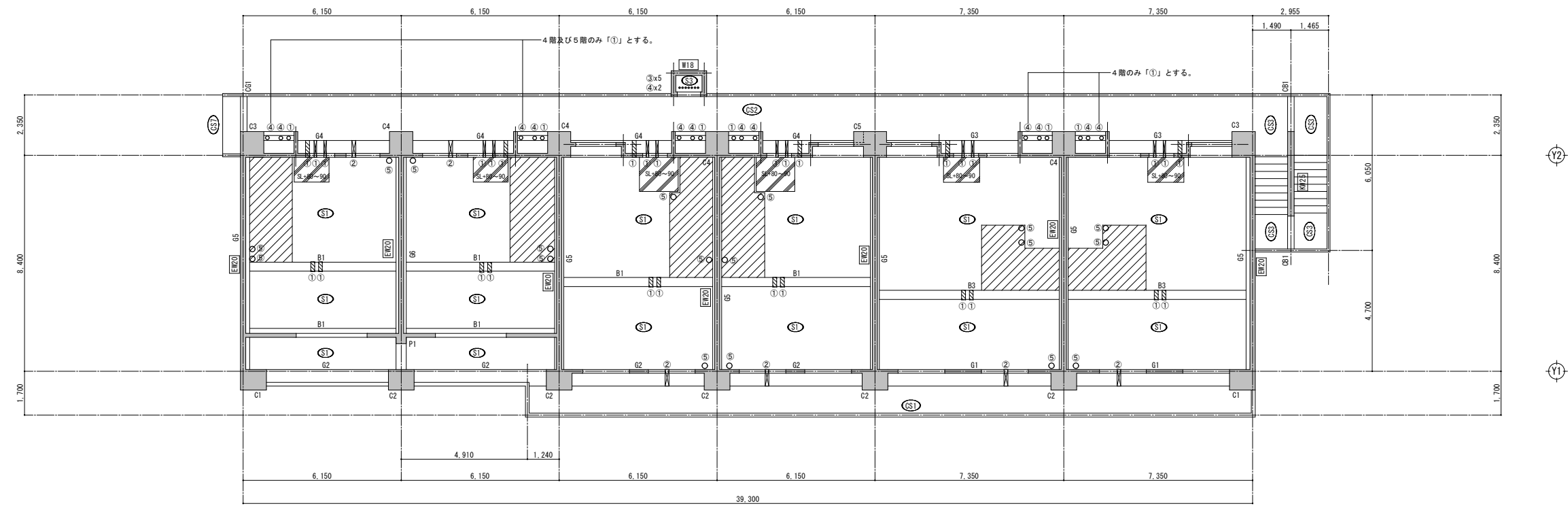
記号	径(φ)	個所数
①	120	9
③	60	5
④	90	11
⑤	220	18

5階床貫通スリーブ

記号	径(φ)	個所数
①	120	8
③	60	5
④	90	12
⑤	220	18

6階床貫通スリーブ

記号	径(φ)	個所数
①	120	6
③	60	5
④	90	14
⑤	220	18



- 共通事項
特記なき限り下記による。
1. 壁符号は、W15とする。
 2. スラブ天端は、FL-140mmとする。
 3. 斜線範囲のスラブ天端は、FL-210mmとする。
 4. 斜線範囲のスラブは、増し打ち範囲を示す。

図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

株式会社 畠中設計
鹿児島市清水町13番22号
〒892-0802 TEL (099) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

玉里団地住宅28号棟新築本体工事

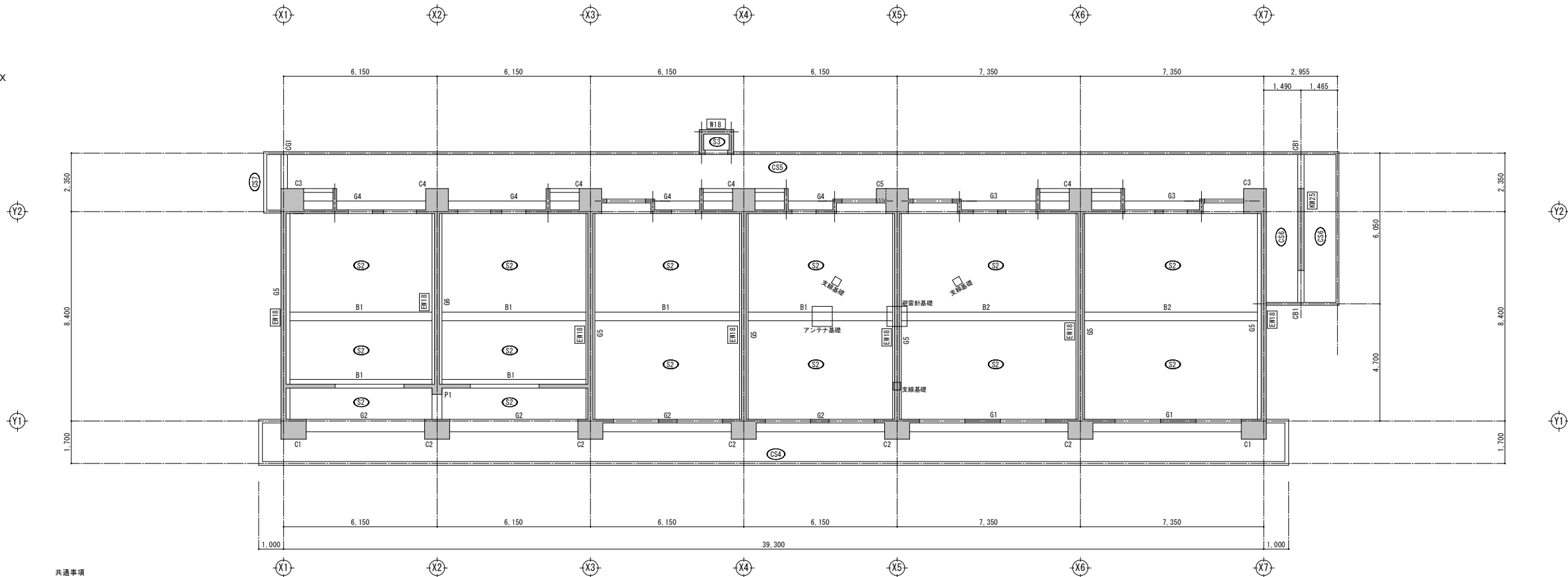
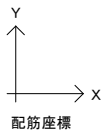
4～6階梁伏図

A1:1/100
A3:1/200

7～8階梁伏図

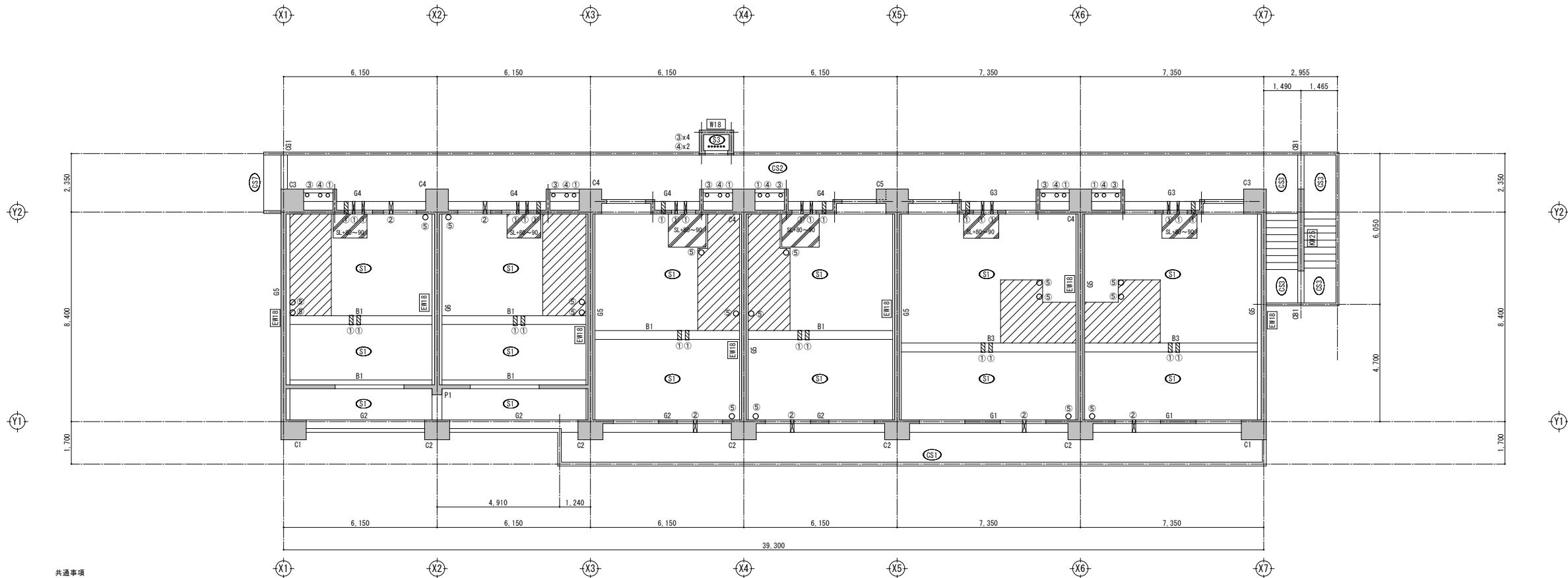
鹿児島市建設局建築部住宅課

S-08



共通事項
特記なき限り下記による。
1. 壁符号は、W15とする。

R階梁伏図 (見上げ図) S=1:100



共通事項
特記なき限り下記による。
1. 壁符号は、W15とする。
2. スラブ天端は、FL-140mmとする。
3. 斜線範囲のスラブ天端は、FL-210mmとする。
4. 斜線範囲のスラブは、増し打ち範囲を示す。

9階梁伏図 (見下げ図) S=1:100

梁貫通スリーブ補強

記号	径(φ)	個所数
①	120	30
②	170	6

床貫通スリーブ

記号	径(φ)	個所数
①	120	6
③	60	10
④	90	8
⑤	220	18

図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

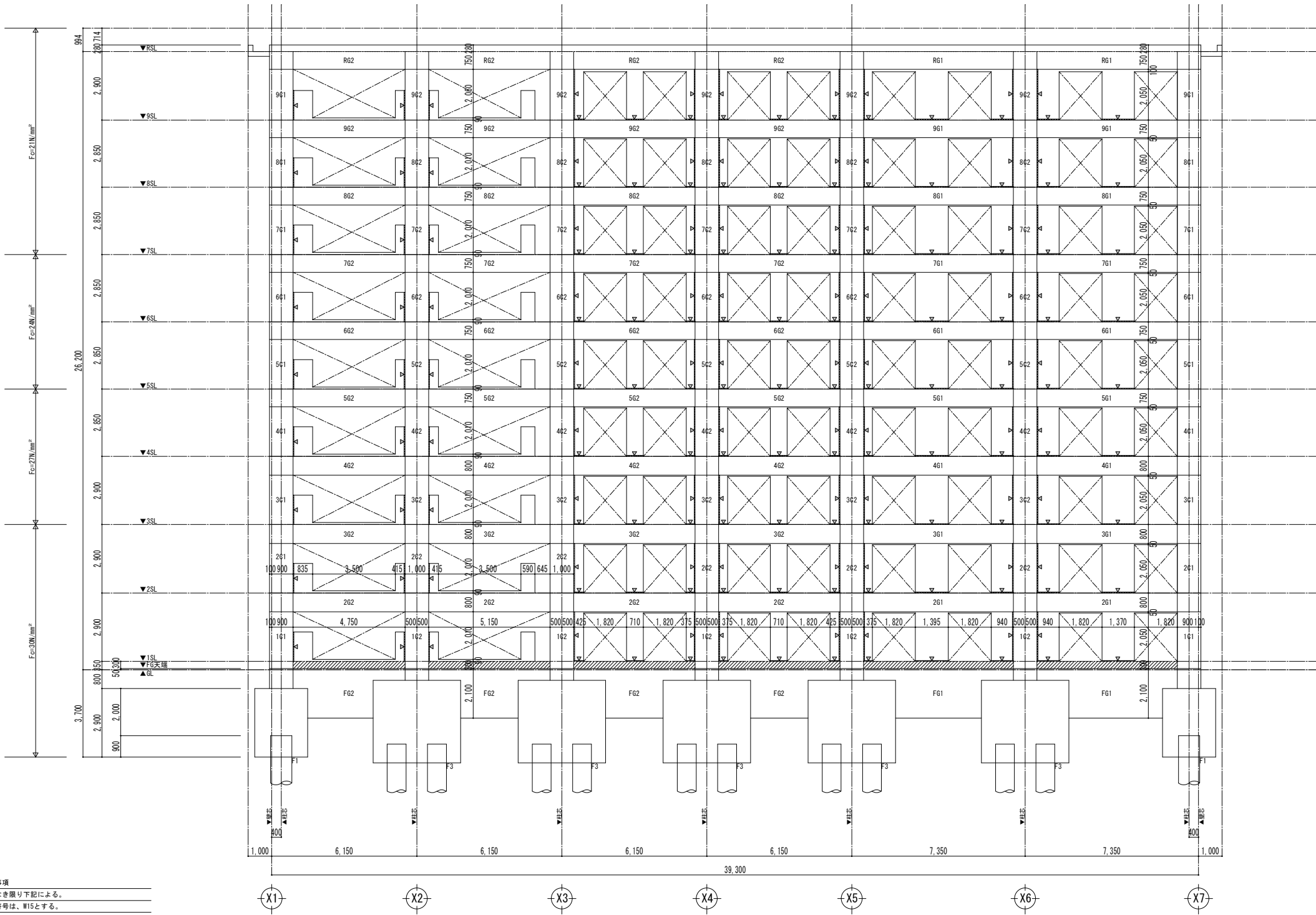
株式会社 畠中設計
鹿児島市清水町13番22号
〒892-0802 TEL (099) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

五里団地住宅28号棟新築本体工事

9階梁伏図
R階梁伏図

A1:1/100
A3:1/200

鹿児島市建設局建築部住宅課



- 共通事項
特記なき限り下記による。
1. 壁符号は、W15とする。
 2. 構造スリット（幅30mm）を示す。
 3. スラブ天端は、FL-140mmとする。
 4. 範囲は、フカシとする。

Y1通リ軸組図 S=1:100

図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

株式会社 畠中設計
鹿児島市清水町13番22号
〒892-0802 TEL (099) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

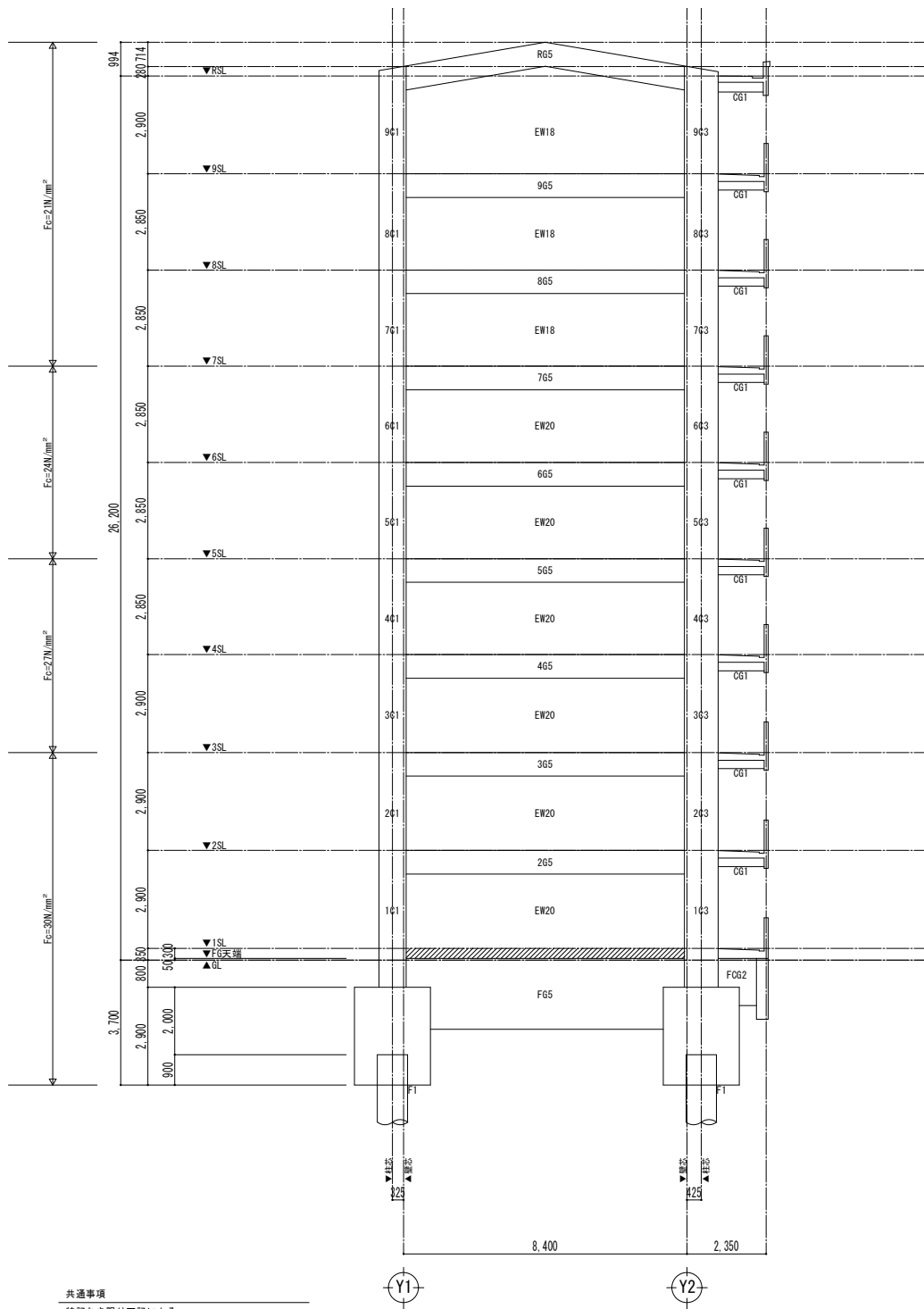


図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

 株式会社 畠中設計
鹿兒島市清水町13番22号
〒892-0802 TEL (099) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

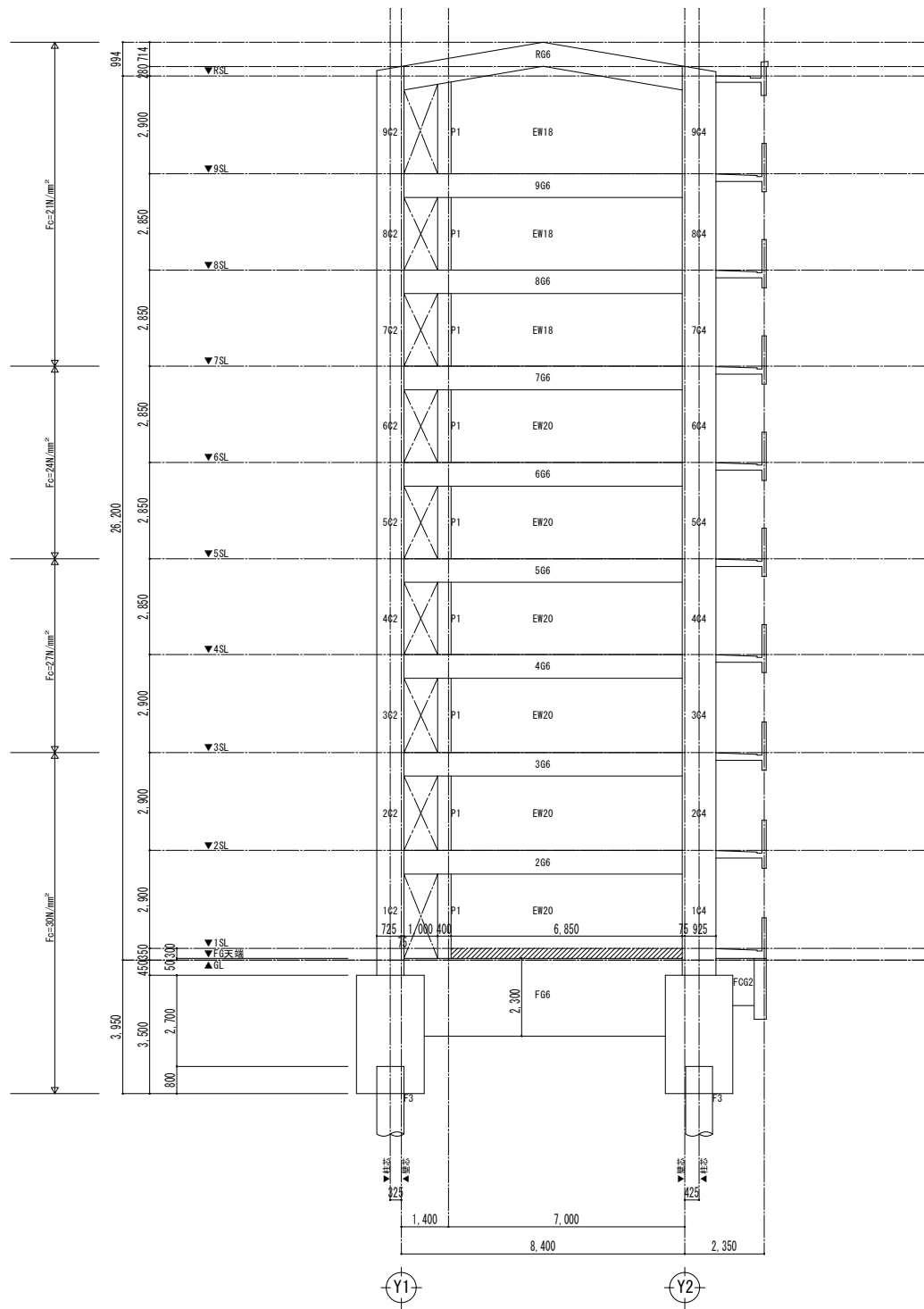
A1:1/100	
A3:1/200	

鹿児島市建設局建築部住宅課



- 共通事項
特記なき限り下記による。
1. 壁符号は、W15とする。
 2. 構造スリット（幅30mm）を示す。
 3. スラブ天端は、FL-140mmとする。
 4. 斜線範囲は、フカシとする。

X1通り軸組図 S=1:100



X2通り軸組図 S=1:100

図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

株式会社 畠中設計
鹿児島市清水町13番22号
〒892-0802 TEL (099) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

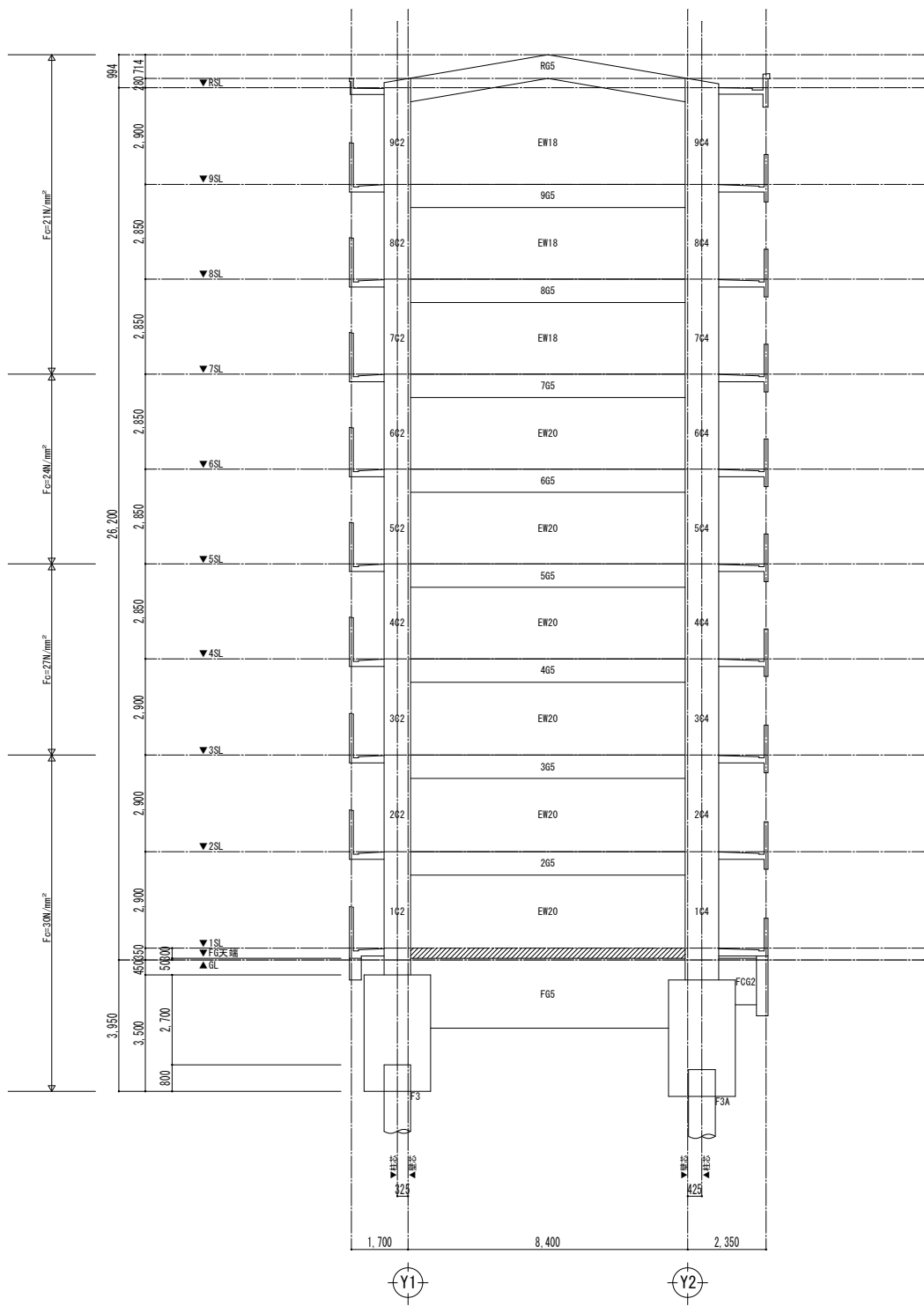
玉里団地住宅28号棟新築本体工事

軸組図-3

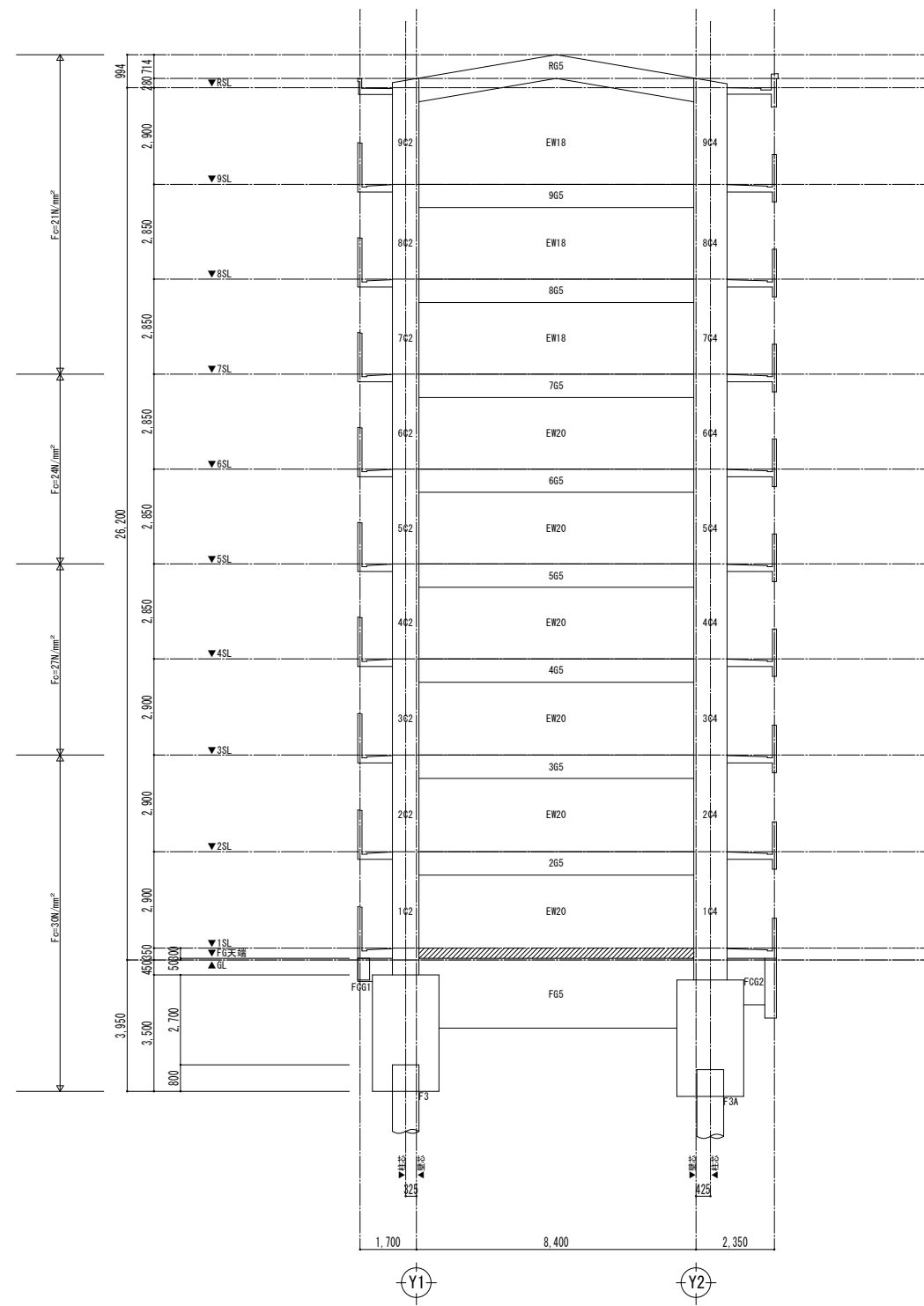
A1:1/100
A3:1/200

鹿児島市建設局建築部住宅課

S-12




X3通り軸組図 S=1:100

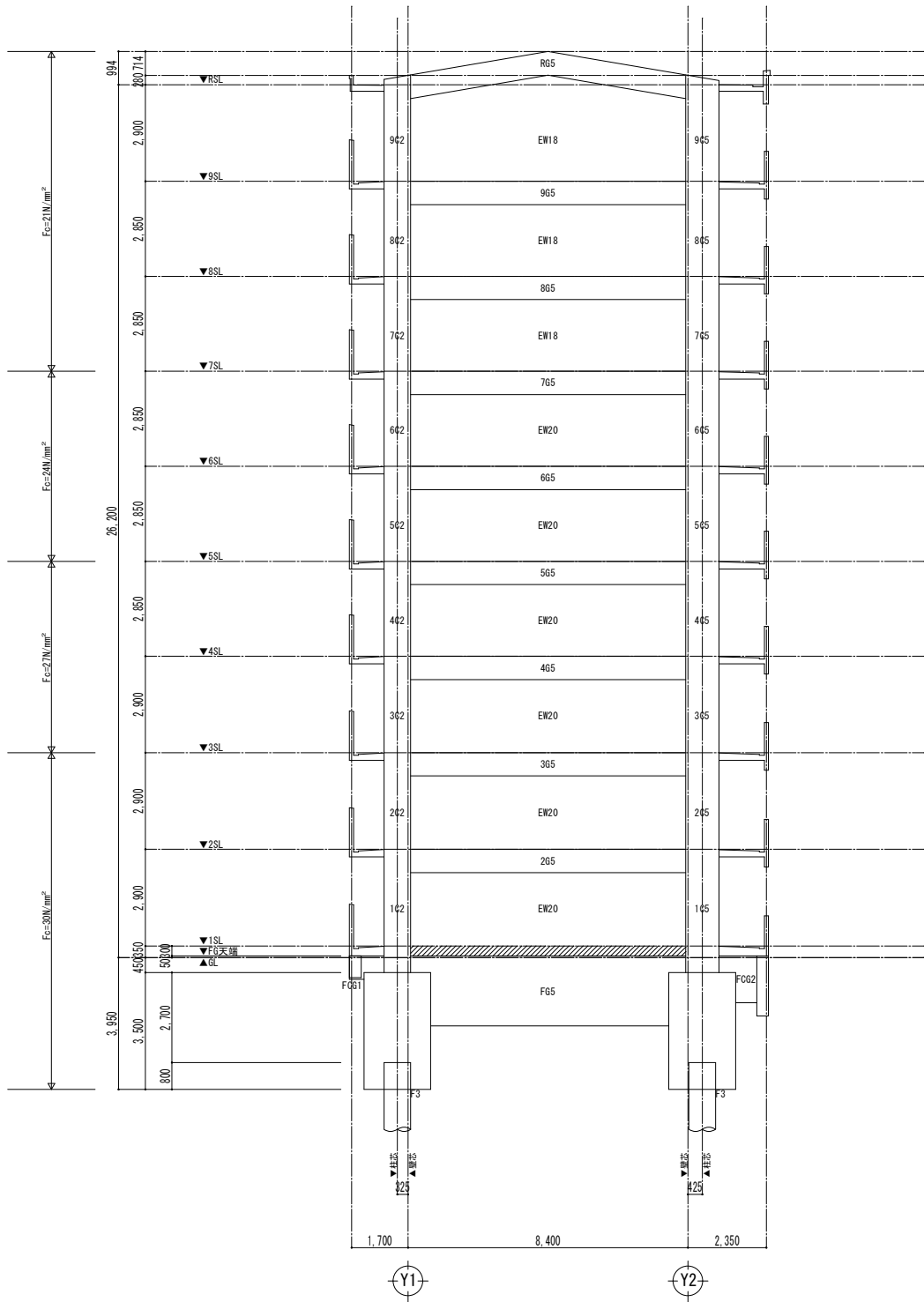


X4通り軸組図 S=1:100

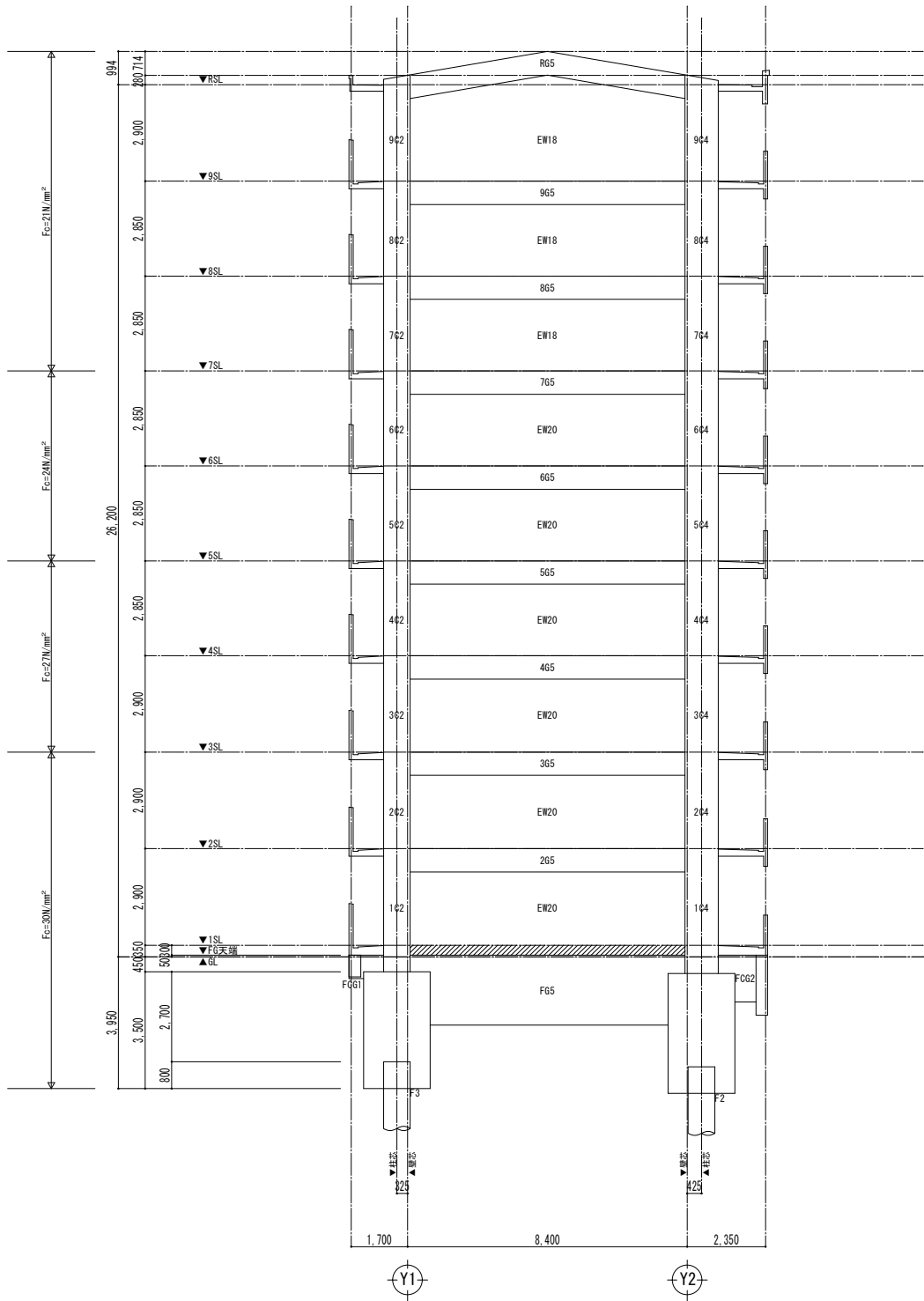
- 共通事項
- 特記なき限り下記による。
1. 壁符号は、W15とする。
 2. 構造スリット（幅30mm）を示す。
 3. スラブ天端は、FL-140mmとする。
 4. 断面積は、フカンとする。

図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

 株式会社 畠中設計 鹿児島市清水町13番22号 〒892-0802 TEL (099) 247-7575 一級建築士 登録第145174号 中村 純一	玉里団地住宅28号棟新築本体工事	
	軸組図－4	A1:1/100 A3:1/200
	鹿児島市建設局建築部住宅課	



X5通り軸組図 S=1:100



X6通り軸組図 S=1:100

- 共通事項
- 特記なき限り下記による。
- 壁符号は、W15とする。
 - 構造スリット（幅30mm）を示す。
 - スラブ天端は、FL-140mmとする。
 - 範囲は、フカンとする。

図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

株式会社 畠中設計
鹿児島市清水町13番22号
〒892-0802 TEL (099) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

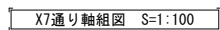
五里団地住宅28号棟新築本体工事

軸組図-5

A1:1/100
A3:1/200

鹿児島市建設局建築部住宅課

S-14



図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

鹿児島市清水町13番22号
〒892-0802 TEL (099) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

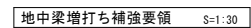
鹿兒島市建設局建築部住宅課

S-15

地中大梁リスト S=1/30

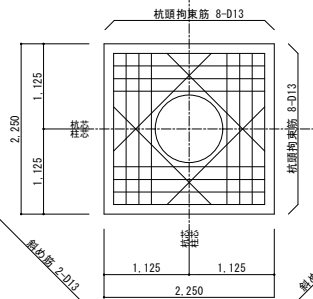
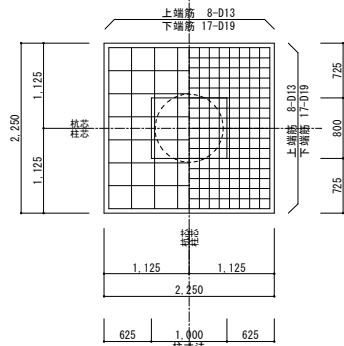
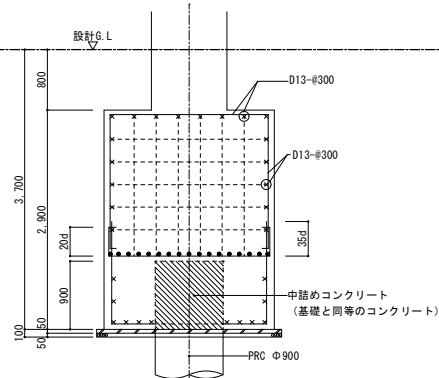
地中小梁リスト S=1/30

符 号	FB1	FB2	FB3	FB4		FB5	FB6	FCG1	FCG2
位 置	全断面		全断面	X5・X7端部・中央		全断面	全断面	全断面	全断面
断 面									
B x D	350 x 650	350 x 1,800	350 x 1,000	350 x 1,000		350 x 1,800	400 x 1,700	350 x 700	350 x 1,400
上端筋	3-D19	3-D19	3-D22	3-D22	4-D22	3-D19	5-D25	4-D22	5-D22
下端筋	3-D19	3-D19	3-D22	3-D22	3-D22	3-D19	5-D25	4-D22	3-D22
腹 筋	2-D10	10-D10	4-D10	4-D10		10-D10	10-D10	2-D10	8-D10
S T P	□-D10-#200	□-D10-#200	□-D10-#200	□-D10-#200		□-D10-#200	□-D13-#100	□-D10-#200	□-D10-#200

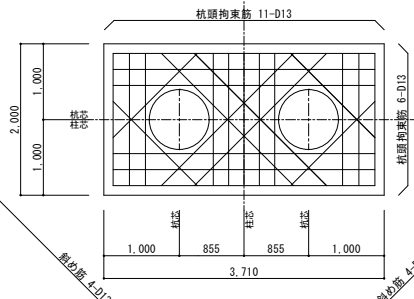
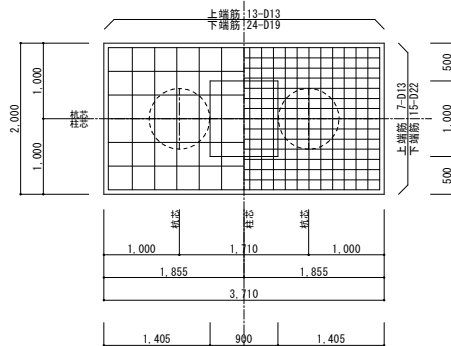
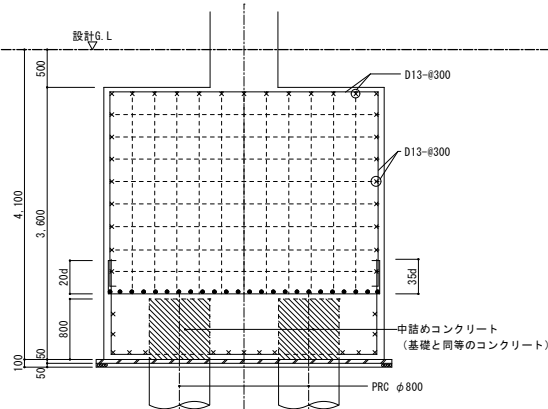


基礎リスト S=1:50

F1

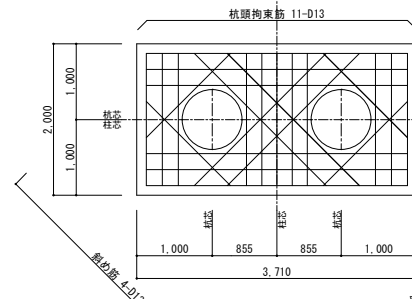
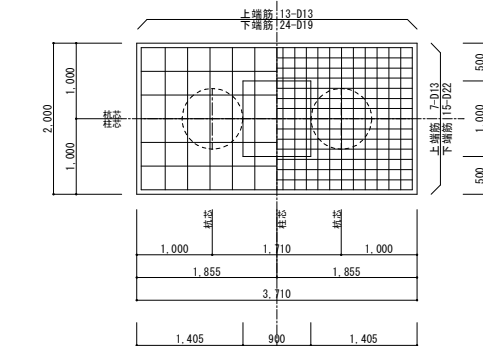
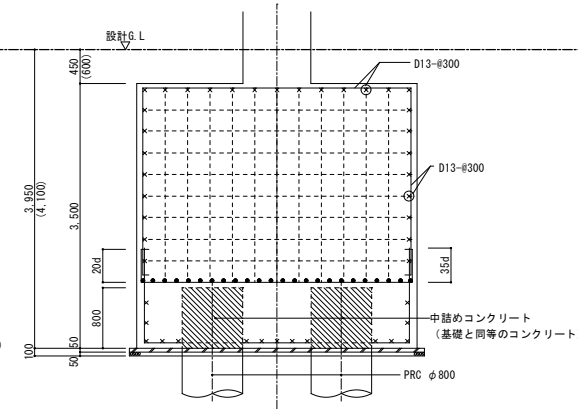


F2

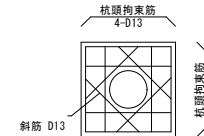
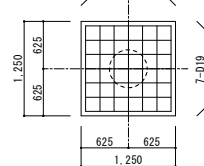
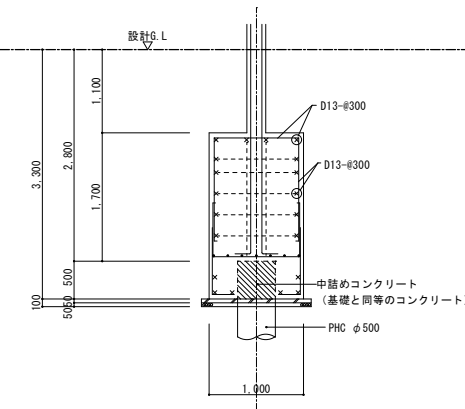


F3 F3A

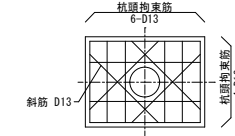
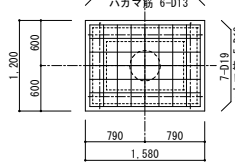
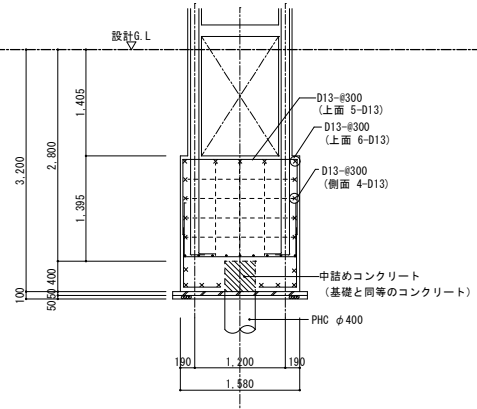
注1. () 内寸法は「F3A」を示す。



F4



F5



図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

株式会社 畠中設計
鹿児島市清水町13番22号
〒892-0802 TEL (099) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

玉里団地住宅28号棟新築本体工事		
基礎リスト	A1:1/50 A3:1/100	S-16
鹿児島市建設局建築部住宅課		



柱リスト S=1/30

※U13は、高強度せん断補強筋(ウルボン1275Φ12.6同等品)を示す。

符号		C 1	C 2	C 3	C 4	C 5
9 階	全断面					
	主 筋	16-D29	16-D29	14-D29	14-D29	14-D29
	帯 筋	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
	接合部帯筋	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
8 階	全断面					
	主 筋	16-D29	16-D29	14-D29	14-D29	14-D29
	帯 筋	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
	接合部帯筋	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
7 階	全断面					
	主 筋	16-D29	16-D29	14-D29	14-D29	14-D29
	帯 筋	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
	接合部帯筋	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
6 階	全断面					
	主 筋	16-D29	16-D29	14-D29	14-D29	14-D29
	帯 筋	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
	接合部帯筋	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
5 階	全断面					
	主 筋	16-D29	16-D29	14-D29	14-D29	14-D29
	帯 筋	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
	接合部帯筋	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
4 階	全断面					
	主 筋	16-D29	18-D29	14-D29	16-D29	16-D29
	帯 筋	□-U13#100	□-U13#100	□-U13#100	□-U13#100	□-U13#100
	接合部帯筋	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100

$F_c = 2.1 \text{ N/mm}^2$

$F_c = 2.1 \text{ N/mm}^2$

$F_c = 2.4 \text{ N/mm}^2$

$F_c = 2.4 \text{ N/mm}^2$

$F_c = 2.7 \text{ N/mm}^2$

$F_c = 2.7 \text{ N/mm}^2$

$F_c = 2.7 \text{ N/mm}^2$

$F_c = 2.7 \text{ N/mm}^2$

$F_c = 2.7 \text{ N/mm}^2$

符号		C 1	C 2	C 3	C 4	C 5
3 階	全断面					
	主 筋	16-D29	18-D29	14-D29	16-D29	16-D29
	帯 筋	□-U13#100	□-U13#100	□-U13#100	□-U13#100	□-U13#100
	接合部帯筋	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
2 階	全断面					
	主 筋	16-D29	18-D29	14-D29	18-D29	18-D29
	帯 筋	□-U13#100	□-U13#100	□-U13#100	□-U13#100	□-U13#100
	接合部帯筋	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
1 階	全断面					
	主 筋	16-D29	18-D29	14-D29	18-D29	18-D29
	帯 筋	□-U13#100	□-U13#100	□-U13#100	□-U13#100	□-U13#100
	接合部帯筋	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100

符号		P 1
全階	全断面	
	主 筋	4-D22
	帯 筋	□-D10#100
	接合部帯筋	□-D10#100



柱リスト S=1/30

図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

株式会社 畠中設計
鹿児島市清水町1-3番2-2号
〒892-0802 TEL (099) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

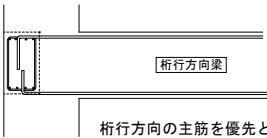
玉里団地住宅28号棟新築本体工事

柱リスト

A1:1/30
A3:1/60

鹿児島市建設局建築部住宅課

S-17



※桁行方向の梁（G1、G2、G3、G4）のかぶり厚さを優先する
※大梁の定置は、柱の見付け巾の0.75倍以上に曲げ込みとする（外端部）
※U13は、高強度せん断補強筋（ウルボン1275φ12.6同等品）を示す。
※幅止め筋は、D10-@1000以下とする

大梁リスト S=1/30

符号		G 1	G 2	G 3	G 4	G 5	G 6	
位置		全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	Y1通より2,400の範囲	中央・Y2端
R 階	断面							
	上端筋	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25
	下端筋	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25
	腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
	S T P	□-D13#200	□-D13#200	□-D13#200	□-D13#200	□-D13#200	□-D13#150	□-D13#150
9 階	断面							
	上端筋	4-D29	4-D29	5-D29	4-D29	3-D25	3-D25	3-D25
	下端筋	4-D29	4-D29	5-D29	4-D29	3-D25	3-D25	3-D25
	腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
	S T P	□-D13#200	□-D13#200	□-D13#200	□-D13#150	□-D13#200	□-D13#150	□-D13#150
8 階	断面							
	上端筋	6-D29	5-D29	6-D29	5-D29	3-D25	3-D25	3-D25
	下端筋	6-D29	5-D29	6-D29	5-D29	3-D25	3-D25	3-D25
	腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
	S T P	□-D13#150	□-D13#200	□-D13#200	□-D13#150	□-D13#200	□-D13#150	□-D13#150
7 階	断面							
	上端筋	7-D29	7-D29	7-D29	7-D29	3-D25	3-D25	3-D25
	下端筋	7-D29	7-D29	7-D29	7-D29	3-D25	3-D25	3-D25
	腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
	S T P	□-U13#150	□-U13#150	□-U13#150	□-U13#200	□-D13#200	□-D13#150	□-D13#150
6 階	断面							
	上端筋	6-D32	6-D32	7-D32	6-D32	3-D25	4-D25	3-D25
	下端筋	6-D32	6-D32	7-D32	6-D32	3-D25	4-D25	3-D25
	腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
	S T P	□-U13#200	□-U13#200	□-U13#200	□-U13#200	□-D13#200	□-D13#150	□-D13#150

符号		G 1	G 2	G 3	G 4	G 5	G 6	
位置		全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	Y1通より2,400の範囲	中央・Y2端
5 階	断面							
	上端筋	8-D32	8-D32	8-D32	8-D32	3-D25	4-D25	3-D25
	下端筋	8-D32	8-D32	8-D32	8-D32	3-D25	4-D25	3-D25
	腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
	S T P	□-U13#200	□-U13#200	□-U13#200	□-U13#150	□-D13#200	□-D13#150	□-D13#150
4 階	断面							
	上端筋	8-D32	8-D32	8-D32	8-D32	3-D25	4-D25	3-D25
	下端筋	8-D32	8-D32	8-D32	8-D32	3-D25	4-D25	3-D25
	腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
	S T P	□-U13#150	□-U13#150	□-U13#150	□-U13#150	□-D13#200	□-D13#150	□-D13#150
3 階	断面							
	上端筋	8-D32	8-D32	8-D32	8-D32	3-D25	4-D25	3-D25
	下端筋	8-D32	8-D32	8-D32	8-D32	3-D25	4-D25	3-D25
	腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
	S T P	□-U13#150	□-U13#150	□-U13#150	□-U13#150	□-D13#200	□-D13#150	□-D13#150
2 階	断面							
	上端筋	8-D32	8-D32	8-D32	8-D32	3-D25	6-D25	3-D25
	下端筋	8-D32	8-D32	8-D32	8-D32	3-D25	6-D25	3-D25
	腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
	S T P	□-U13#150	□-U13#150	□-U13#150	□-U13#150	□-D13#200	□-U13#150	□-D13#150

図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

株式会社 島中設計
鹿児島市清水町13番22号
〒892-0802 TEL (099) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

玉里団地住宅28号棟新築本体工事

大梁リスト

A1: 1/30
A3: 1/60

鹿児島市建設局建築部住宅課

壁リスト S=1/30

※特記事項 増し打ちは意匠図に依る

符 号	W12	W15	W18	EW18	EW20	KW25
水平断面						
厚 サ	120	150	180	180	200	250
縦 筋	D10 #200 シングル配筋	D10 #200 千鳥グランド配筋	D10 #200 ダブル配筋	D10 #200 ダブル配筋	D13 #150 ダブル配筋	D13 #150 ダブル配筋
横 筋	D10 #200 シングル配筋	D10 #200 千鳥グランド配筋	D10 #200 ダブル配筋	D10 #200 ダブル配筋	D13 #150 ダブル配筋	D13 #200 ダブル配筋
開口部 補強筋	縦 筋	1-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D19
	横 筋	1-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D19
	斜 筋	1-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D19
開口補強要領				壁スリット要領図(完全スリット)		
<p>500 (この範囲に開口補強金を納めること)</p> <p>ワイヤメッシュは外壁の外側のみ配置の事</p> <p>開口補強筋</p> <p>補強筋が横に配置出来ない場合は縦配置とする</p>				<p>(25d) 350 250 80</p> <p>スリット材 (耐火・止水型)</p> <p>養生材</p> <p>受け筋 1-D13</p> <p>D13 #300 (防錆処理を行う)</p> <p>※鉄筋は亜鉛メッキ処理品とする。</p> <p>＜柱＞</p> <p>＜梁＞</p> <p>受け筋 1-D13</p> <p>養生材</p> <p>スリット材 (耐火・止水型)</p> <p>D13 #300 (防錆処理を行う)</p> <p>※鉄筋は亜鉛メッキ処理品とする。</p>		

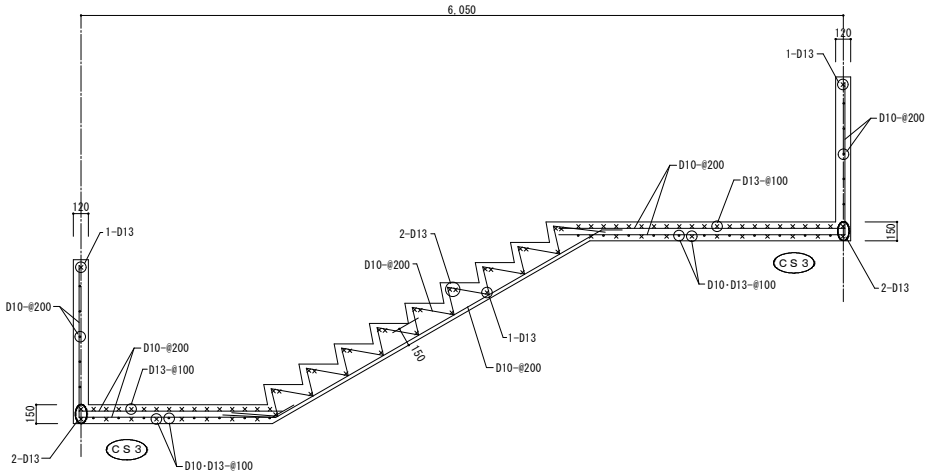
スラブリスト

符 号	厚 寸	位 置	短 辺 方 向		長 辺 方 向		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
S 1	210	上 端 筋	D13 ㊦200	———	D13 ㊦200	———	㊦73配筋
		下 端 筋	D10-D13 ㊦200	———	D10-D13 ㊦200	———	四辺固定
S 2	180+30	上 端 筋	D13 ㊦200	———	D10-D13 ㊦250	———	㊦73配筋
		下 端 筋	D10-D13 ㊦200	———	D10-D13 ㊦250	———	四辺固定
S 3	150	上 端 筋	D10 ㊦200	———	D10 ㊦250	———	㊦73配筋
		下 端 筋	D10 ㊦200	———	D10 ㊦250	———	四辺固定
D S	150	上 端 筋	D10 ㊦200	———	D10 ㊦250	———	㊦73配筋
		下 端 筋	D10 ㊦200	———	D10 ㊦250	———	四辺固定
C S 1	230~150	上 端 筋	D13 ㊦100	———	D10 ㊦200	———	㊦73配筋
		下 端 筋	D10-D13 ㊦100	———	D10 ㊦200	———	片持ち版
C S 2	230~150	上 端 筋	D13 ㊦100	———	D10 ㊦200	———	㊦73配筋
		下 端 筋	D10-D13 ㊦100	———	D10 ㊦200	———	片持ち版
C S 3	150	上 端 筋	D13 ㊦100	———	D10 ㊦200	———	㊦73配筋
		下 端 筋	D10-D13 ㊦100	———	D10 ㊦200	———	片持ち版
C S 4	200~150	上 端 筋	D13 ㊦150	———	D10 ㊦200	———	㊦73配筋
		下 端 筋	D10-D13 ㊦150	———	D10 ㊦200	———	片持ち版
C S 5	230~150	上 端 筋	D13 ㊦100	———	D10 ㊦200	———	㊦73配筋
		下 端 筋	D10-D13 ㊦100	———	D10 ㊦200	———	片持ち版
C S 6	200~150	上 端 筋	D13 ㊦100	———	D10 ㊦200	———	㊦73配筋
		下 端 筋	D10-D13 ㊦100	———	D10 ㊦200	———	片持ち版
C S 7	150	上 端 筋	D13 ㊦200	———	D10 ㊦200	———	㊦73配筋
		下 端 筋	D10-D13 ㊦200	———	D10 ㊦200	———	片持ち版

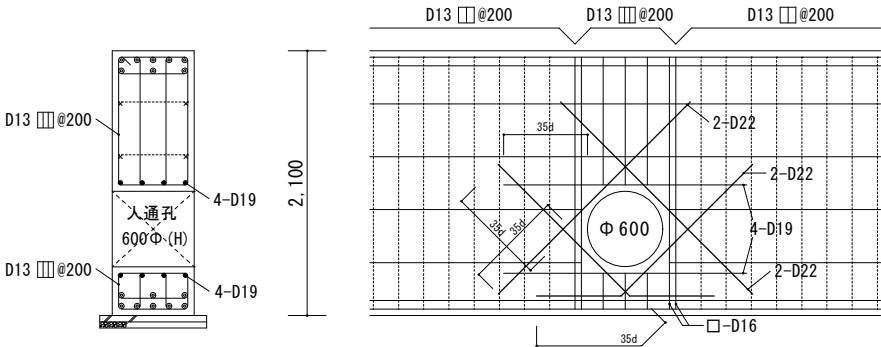
小梁リスト S=1/30

※幅止め筋は、D10-@1000以下とする

符 号	B 1	B 2		B 3			C B 1		CG 1
位 置	全断面	X5・X7端部・中央	X6端部	X5・X7端部	中央	X6端部	元端	先端	全断面
断 面									
B X D	350 × 650	350 × 650		400 × 650			250 × 550		250 × 400
上端筋	3-D22	3-D22	6-D22	3-D22	3-D22	7-D22	4-D19	2-D19	2-D19
下端筋	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	4-D22	6-D22	3-D19	2-D19	2-D19
腹 筋	2-D10	2-D10		2-D10					
S T P	□-D10-#200	□-D10-#200		□-D10-#150			□-D10-#200		□-D10-#200



階段配筋図 S=1:30



人通孔配筋図 S=1/30

注 1. Φ630も同補強要領とする。

図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

株式会社 畠中設計

鹿児島市清水町13番22号
〒892-0802 TEL (090) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

玉里団地住宅28号棟新築本体工事

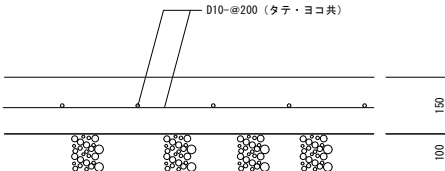
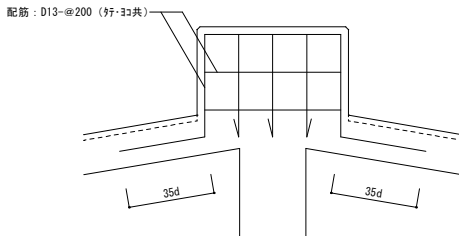
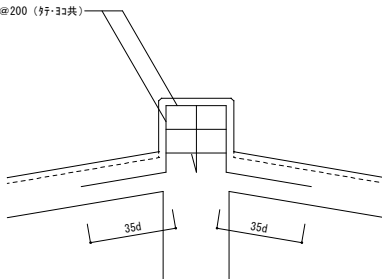
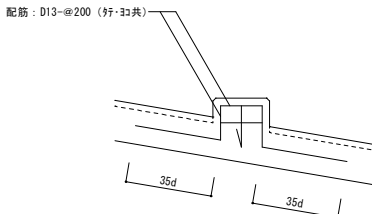
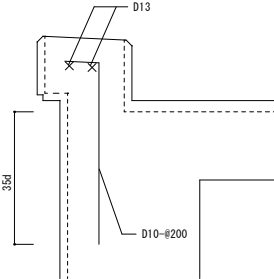
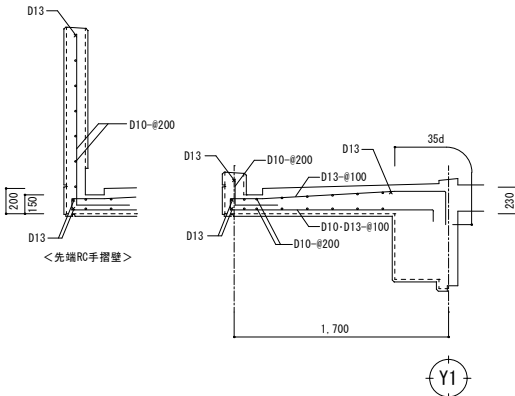
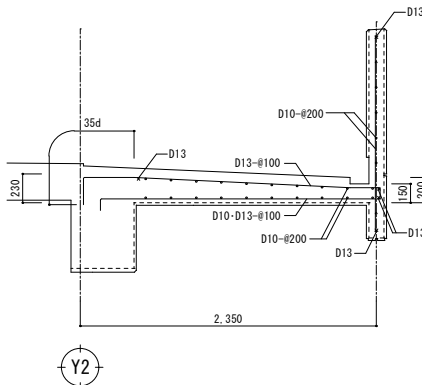
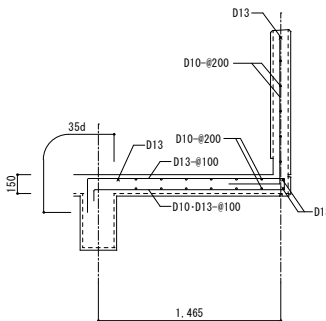
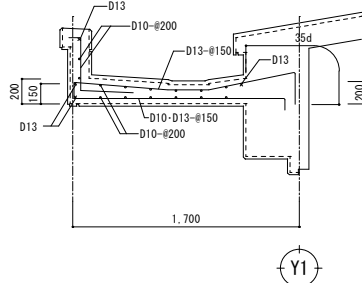
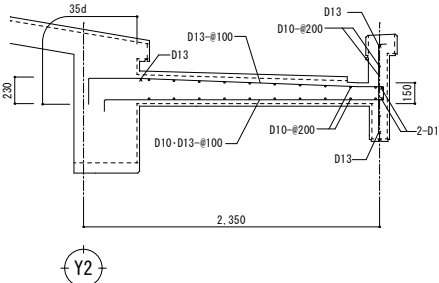
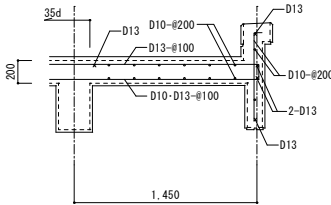
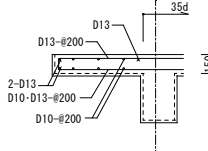
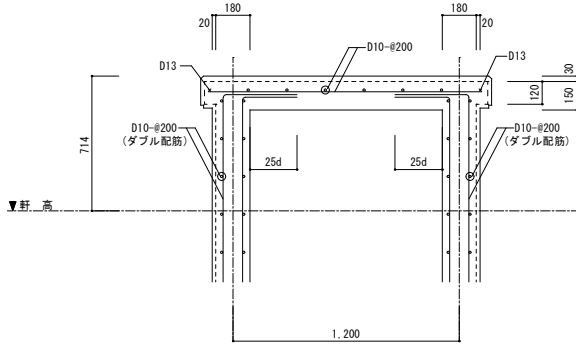
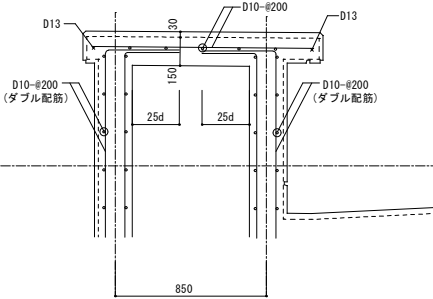
壁・スラブ・小梁リスト

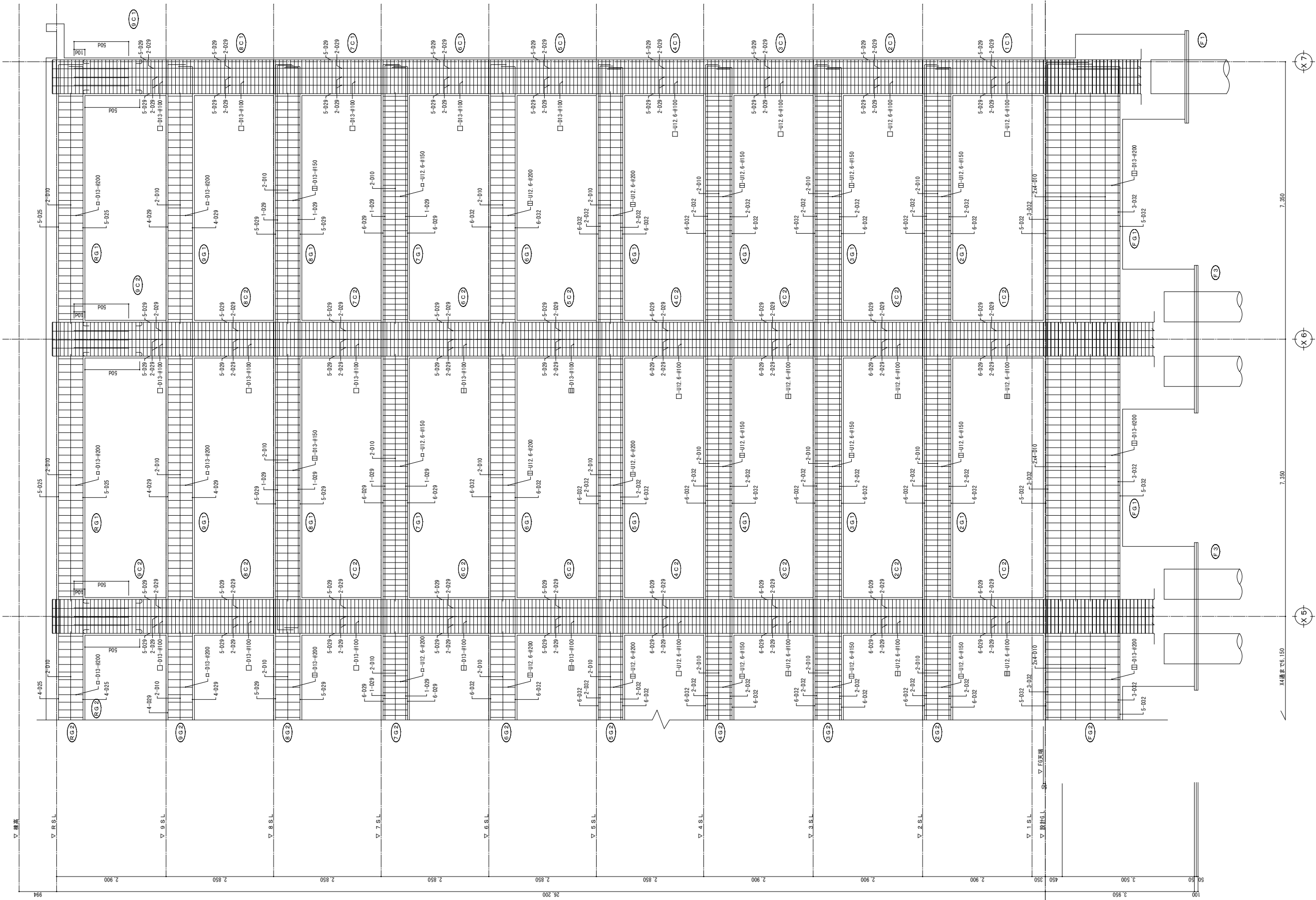
階段配筋図

鹿児島市建設局建築部住宅課

A1:1/30
A3:1/60

S-19

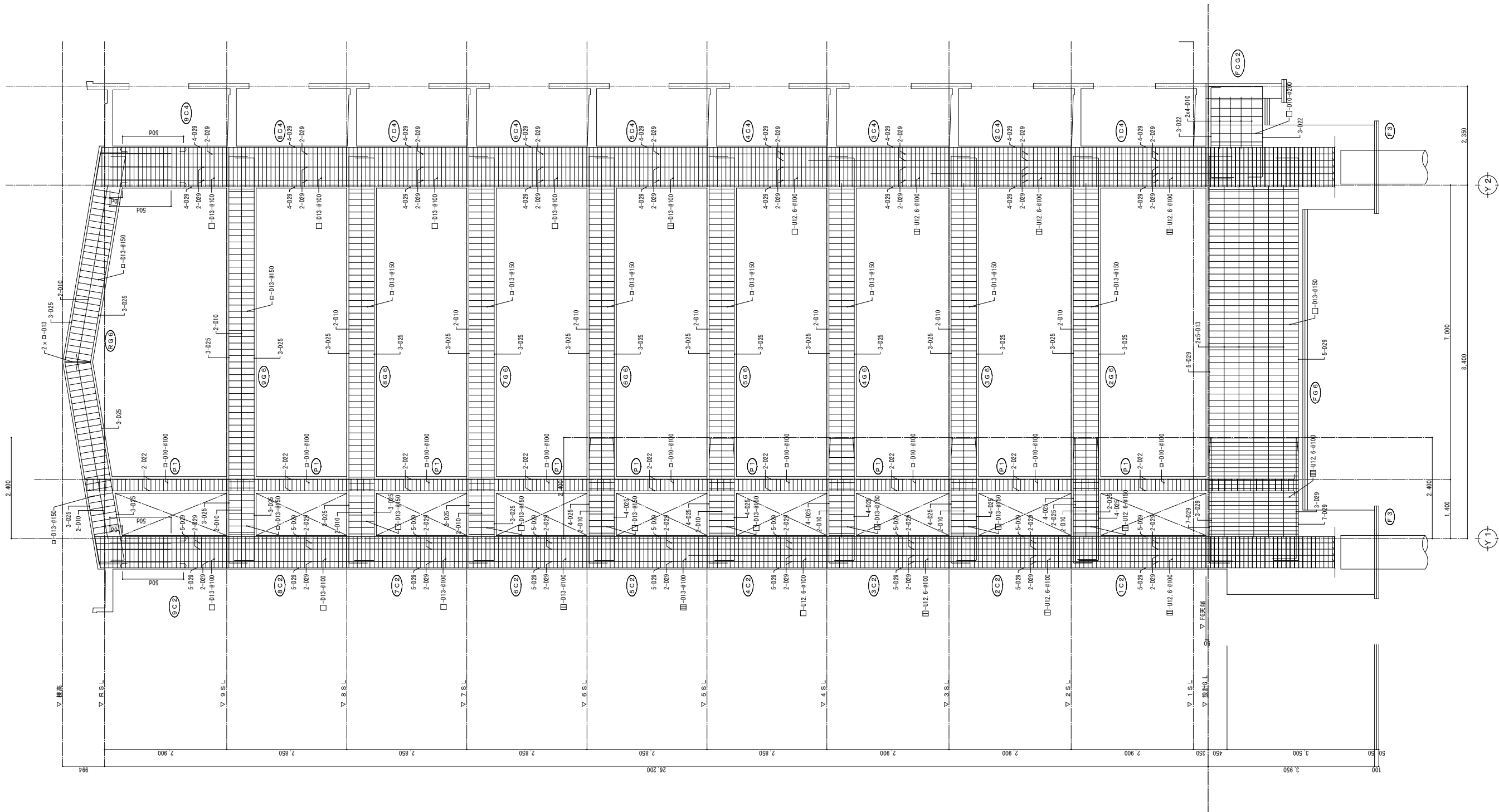
No. 01	土間（スロープ、他外構部）	1：10	No. 02	アンテナ基礎・避雷針基礎	1：20	No. 03	丸環取付架台	1：20	No. 04	支線基礎	1：20	No. 05	勾配屋根妻部立上り	1：10
														
No. 06	C S 1（南側）	1：30	No. 07	C S 2（共用廊下側）	1：30	No. 08	C S 3（階段）	1：30	No. 09	C S 4（R階南側）	1：30	No. 10	C S 5（R階北側）	1：30
														
No. 11	C S 6（階段庇）	1：30	No. 12	C S 7	1：30	No. 13	E P S屋根部		1：20					
														



図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

株式会社 中設計
鹿児島市清水町13番22号
〒892-0802 TEL (090) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

五里団地住宅28号棟新築本体工事		
Y1通架構配筋図	A1:1/50 A3:1/100	S-21
鹿児島市建設局建築部住宅課		



X2通架構配筋図 S-1/50

図面作成
一級建築士：第207802号
構造設計一級建築士：第7330号
小城 登志郎

鹿兒島市清水町13番22号
〒892-0802 TEL (090) 247-7575
一級建築士 登録第145174号
中村 純一

五里団地住宅28号棟新築本体工事

X2通架構配筋図 A1:1/50
A3:1/100

鹿兒島市建設局建築部住宅課

S-22